

令和5年度（2023年度） 事業報告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

法人本部

新型コロナウイルス感染症は5月に感染症法の第5類に移行されたが、施設内でのマスク着用と感染者発生時の情報共有体制は維持しながら、感染予防対策は緩和できるものと考え、利用者行事や職員研修、そして地域との交流行事などの日常化も検討してきたが、各所での小規模な感染は頻発し行事等が延期や中止となることも多々あった。入所施設内では利用者・職員への感染が時折発生した。事業停止に陥ることまではなかったが、第5類になったことでむしろ対応に迷走するケースも見られた。

法人運営面では、6月には「日進ワークキャンパスが」、光和寮の従たる事業所から単独で就労継続支援事業B型と就労移行支援を備える多機能型事業所として開設し、9月には、明和寮生活介護事業と戸田川グリーンヴィレッジ通所生活介護事業を合併単独化した「クリエイト東茶屋」が港区東茶屋にて開設した。また、光和寮サービス棟の建替え工事も第2期工事が終わり、これにより建物全体が完成した。クリエイト東茶屋も光和寮サービス棟も、補助金を受けずに自己資金と借入金で土地建物を法人で調達したことにより、自己資本比率が大きく下がることとなり、徐々に返済負担も意識した経営が必要になってくると考えられる。

当年度は2年毎の役員改選が行われ新たな理事長が選定された。新理事長は各拠点を取りながら管理職を中心にヒアリングを行い課題等の集約を行った。職員にも機会のある毎に法人理念と絡めながら、働き甲斐のある職場にすること、職員の専門性を高めること、相談支援の重要性を認識すること、職員の福祉への関心が法人内に留まらず広く外部へも向けられるように支援すること、などが伝えられた。

経営面では、近年の新規事業や従来問題視していた収益性の良くない事業を「要観察事業」と位置づけて注目し、施設長会での取り組み報告や部長会ワーキングにて収支改善について検討した。上半期の就労支援の生産活動の低迷や経費増大などもあり、サービス活動増減差額 100 百万円も予想される厳しい状況ではあったが、下半期の生産活動の追い上げや物価高騰対策補助金が当年度も打たれたことにより影響は緩和されたものの過去 10 年以上なかったサービス活動増減差額マイナスは、収支構造を変えていかなければ今後も続く恐れがあるため、収益・経費の両面で改善が急務である。

人材確保面では、新規事業の開設に伴い近年より更に職員増となった。一方でキャリア採用を目指す専門職などで採用の難しさが増している状況であり、欠員補充がままならない箇所もいくつかある。新卒者採用活動の継続や、ベトナムからの介護人材

の受け入れなど新規採用の動きもあった。

1 事業計画への報告事項

1. 継続的安定的な収益増の仕組みをつくる

- ・数値目標として掲げたサービス活動増減差額率は、達成どころか近年では例のない収支マイナスという結果となった。前年度に引き続いた物価高騰対策の補助金などもあり収益は前年を上回ったものの、物価高騰や新規事業など収益率が振わない事業が増えている影響があり、経費増大を招くこととなった。
- ・就労事業（生産活動）は、目標に達した事業が多いものの、主力の乏しい小規模の事業所での売上確保は、基本報酬のベースとなる工賃額にも直結し、依然として大きな課題である。当年度はさらに材料費や外注費の高騰による影響が大きく収益率は悪化した。今後の見通しとして、計算方法が変更となった平均工賃額を、さらに底上げしていかなければ福祉事業でも収入減となる。
- ・サービス活動増減差額率は 0.7%となったが、期の途中ではもっと厳しい予測もあったものの、就労支援事業の期末の追い上げと、物価高騰対策補助金による影響が大きい。大がかりな施設整備なども補助金に頼らず自力で資金調達ができる指標としてきたサービス活動増減差額率 5%が相当遠いものになった。前期よりは改善したものの当年度の目標は及ばないばかりか、内容は寄附金の増によるものと、新型コロナ補助金や処遇改善加算など同額以上の支出と連動して収入増となっているものが多いため、経営的には前年度よりも状況は良くない。新規事業による人件費増・物価高騰・新規事業の開設や整備事業による支出増が影響し厳しいものとなっている。

2. 継続的な業務改善による組織の強化

- ・事業推進として事業部制を模索するにあたり、法人全体の課長会議や就労支援事業の営業会議などを実施し、課題や戦略の共有を図った。
- ・策定義務化までの最終年度となる当年度は、各事業で作成された事業継続計画（BCP）を見直す動きを行った。新型コロナはインフルエンザ同等の第5類となったものの、策定すべき感染症対策のBCPは、新型コロナ対策とはせず、未知の第2類相当で取りまとめた。策定から運用へ繋げるための職員への研修や訓練など、実践的な活動につなげられた事業所は少ない結果となった。
- ・職員の目標管理や人事考課など1年を通して、人事管理システム「カオナビ」上で実施した、設定など課題もあったが、取り組む時間の短縮化につながった。また、秋に実施した職員の年末調整もオンラインで完結する仕組みとしたことで、戸惑う声は少なからずあったが、書類での実施から大きく省力化に繋がった。

3. 体系的な人材育成システムの構築と人材の確保

- ・年間計画に基づき内部研修を実施した。
- （法人基礎研修、新卒者研修、フォローアップ研修、法人職員研修、中堅・主任・係

長職員研修)

- ・ 職員のメンタルヘルス対策としての「こころの保健室」を毎月 1 回定員 3 名で実施。職員や施設長から利用に関する問い合わせがあり徐々に認知されつつある。年間延べ利用者数 34 名。
- ・ 前年度に引き続き若手職員によるプロジェクトチーム「若手元気 Project」を組織し毎月 1 回会議を開催。職員交流を目的としたオンラインイベントを企画し 12 月実施する。職員 83 名が参加し拠点間の交流を深めることができた。
- ・ 外国人材の活用は、連携法人が 4 に増え、当法人 4 人目となる人材の来日手続きを終え 10 月から留学生として受入れる。協定を結んだ現地大学関係者などを日本に迎え、この取り組みをテーマとした国際セミナーを 8 月 2 日に開催した。
- ・ 新卒者採用目標人数 3 名に対し 6 名(大卒 5 名・短大卒 1 名)採用することができた。
- ・ 法人の魅力や求職者が求める情報を新たに掲載し 10 月から採用ホームページをリニューアルした。
- ・ 法人全体の年間採用者数と退職者数や採用経費の分析を行い、効率的・効果的な採用活動に繋げることを目的として拠点単位で行ってきた中途採用活動を法人単位で行う検討を行う。次年度からの実施を目指す。

4 . 人としての尊厳、安心・安全を基本に、開かれた施設運営に努める

- ・ 各事業所に設置された虐待防止委員会の取り組みにはややばらつきが見られるが、共通の題材を用いた研修の開催などで職員の意識向上に取り組んだ。
- ・ 職員の就労環境の改善のため、健康経営への取り組みや SDGs 推進に繋がる女性の健康問題への理解促進活動や、男性育休取得に向けた情報提供、ボランティア休暇や不妊治療休暇の導入に取り組んだ。
- ・ 地域貢献委員会にて、なごやよりどころサポート事業への参画強化を図るため、「サロン活動」開催の検討や、地域の特別支援学校への情報提供、福祉教育機関との連携強化などに取り組んだ。

5 . 建物・設備の計画的な更新

- ・ 光和寮デイサービス棟の完成により、建物更新の計画の中心は明和寮・港ワークキャンパスに移った。約 10 年後の明和寮建替えを目標に、既存設備の計画的な修繕として電気設備や照明器具のリニューアルを実施した。将来像である大規模な就労支援事業を軸にした事業体制構想の策定に取り組んだ。

2 経営実施状況

(1) 諸会議

ア 評議員会の開催状況 (計3回)

開催年月日	議 題
定時評議員会 令和5年6月29日 (木)午後1時45分 名古屋市中小企業振興 会館 第2会議室	第1号議案 役員の選任について 第2号議案 定款変更について 報告事項 評議員の選任報告について 報告事項 令和4年度事業報告・決算について 報告事項 その他理事会審議事項等の報告について
臨時評議員会 令和5年11月30日 (木)午後1時45分 光和寮デイサービス 棟 愛光館	第1号議案 令和5年度第一次補正予算(案)について 第2号議案 基本財産の処分について 第3号議案 定款変更について 報告事項 令和5年度上半期事業報告・中間決算について 報告事項 理事会審議事項等の報告について 報告事項 その他理事会審議事項等の報告について
臨時評議員会 令和6年3月28日 (木)午後1時45分 光和寮デイサービス 棟 愛光館	第1号議案 令和5年度 第二次補正予算(案)について 第2号議案 令和6年度 事業計画(案)・収支予算(案) 資産運用方針(案)について 報告事項 理事会審議事項等の報告について 報告事項 その他報告事項等

イ 理事会の開催状況 (計8回)

令和5年6月13日(火)午後1時43分 名古屋市中小企業振興会館 第2会議室	
議 案	第1号議案 令和4年度 事業報告・決算(案)について 第2号議案 役員選任候補者について 第3号議案 定款変更について 第4号議案 諸規程の改定について 第5号議案 施設長の任免について 第6号議案 定時評議員会の招集について (報告)理事長等の職務執行状況、理事長の専決事項など
令和5年6月29日(木)午後3時10分 名古屋市中小企業振興会館 第2会議室	
議 案	第1号議案 理事長の選定について 第2号議案 専務理事並びに常務理事の選定について 第3号議案 会長並びに相談役の選定について 第4号議案 評議員選任・解任委員の選定について 第5号議案 会計監査人の報酬について 第6号議案 諸規程の改定について

令和5年7月27日(木)午前9時55分 名古屋ライトハウス 福祉ホームかわな会議室	
議案	第1号議案 明和寮生活介護事業及び共生型サービスの廃止 第2号議案 故 岩川保氏からの遺贈受け入れについて
令和5年8月29日(火)午後2時52分 名古屋都市センター 第5会議室	
議案	第1号議案 諸規程の改定について 第2号議案 施設長の任免(解任)について (報告)ベトナム人材確保事業
令和5年10月13日(金)午前10時30分 名古屋ライトハウス 福祉ホームかわな会議室	
議案	第1号議案 名古屋市が設置する障害者就労支援窓口にあいち県セルフセンターとの共同事業体としての応募について (報告)愛盲報恩会贈呈者、ベトナム人材確保事業等
令和5年11月17日(金)午後1時45分 名古屋ライトハウス 光和寮デイサービス棟 愛光館	
議案	第1号議案 令和5年度 第一次補正予算(案)について 第2号議案 基本財産の処分について 第3号議案 定款変更について 第4号議案 評議員会の招集について (報告)令和5年度上半期事業報告・中間決算について、理事長等の職務執行状況、理事長専決事項等
令和6年1月30日(火)午後1時45分 名古屋ライトハウス 光和寮デイサービス棟 愛光館	
議案	(報告)期中監事監査報告、名古屋市就労支援窓口の選定結果と受託、第5期3か年計画基本方針、能登半島地震支援、新型コロナウイルス第10波について等
令和6年3月14日(木)午後1時43分 名古屋ライトハウス 光和寮デイサービス棟 愛光館	
議案	第1号議案 令和5年度 第二次補正予算(案)について・積立金の取崩しについて 第2号議案 令和6年度 事業計画(案)・収支予算(案)・資産運用方針(案)について 第3号議案 施設長の任免について 第4号議案 施設長等の継続雇用にかかる更新について 第5号議案 諸規程の改定について 第6号議案 港ワークキャンパス設備資金借入について 第7号議案 役員賠償責任保険の更新について 第8号議案 評議員会の招集について (報告)新規・観察事業等状況等

ウ 監事活動状況

開催年月日	内 容
令和5年4月～5月	令和4年度 期末監事監査の実施（3日間）
令和5年5月31日	会計監査人から監査結果報告、報告書受領
令和5年9月26日	会計監査人 令和5年度監査計画ヒアリング
令和5年10月	各施設見学、課題ヒアリング
令和5年12月12日	期中監事監査 人材確保、戸田川GVについて

エ 評議員選任・解任委員会の開催状況（計1回）

開催年月日	議 題
令和5年4月17日 福祉ホームかわな会議室	第1号議案 評議員の任命について

オ 法人運営委員会の開催状況（計24回）

開催年月日	議 題
令和5年4月6日（木）	定例報告 新事業進捗 内部監査報告 他
令和5年4月24日（月）	定例報告 新事業進捗 事業報告 決算業務進捗報告 他
令和5年5月8日（月）	定例報告 新事業報告 監事監査 他
令和5年5月22日（月）	定例報告 新事業報告 監事監査 理事会 他
令和5年6月7日（水）	定例報告 理事会 評議員会 夏季賞与 他
令和5年6月20日（火）	定例報告 評議員会 理事選任 他
令和5年7月5日（水）	定例報告 新規事業 理事長 他
令和5年7月21日（金）	定例報告 理事会 月報 ベトナム 公益通報 他
令和5年8月7日（月）	定例報告 理事会 クリエイト東茶屋 他
令和5年8月18日（金）	定例報告 理事会 月報 10月人事 他
令和5年9月1日（金）	定例報告 名古屋市指導監査 10月人事 その他
令和5年9月19日（月）	定例報告 新事業進捗 月報 人事 他
令和5年10月4日（水）	定例報告 就労支援窓口 理事会 他
令和5年10月19日（木）	定例報告 半期実績 理事会 他
令和5年11月2日（木）	定例報告 理事会 評議員会 人事 冬季賞与 他
令和5年11月16日（木）	定例報告 月報 評議員会 年末表彰 他
令和5年12月5日（火）	定例報告 愛盲報恩会 年末年始の動き 人事 他
令和5年12月19日（火）	定例報告 月報 理事会 他
令和6年1月9日（火）	定例報告 能登地震対応 人事 他
令和6年1月22日（月）	定例報告 事業計画 理事会 ベトナム人材確保 事業部制 他
令和6年2月6日（火）	定例報告 内部監査 能登地震支援 他

令和6年2月19日(月)	定例報告 月報 次期研修 人事 他
令和6年3月5日(火)	定例報告 理事会 事業計画・予算 理事会 他
令和6年3月15日(金)	定例報告 評議員会 基礎研修 人事 他

カ 施設長会議の開催状況 (計12回)

開催年月日	主 な 議 題
令和5年4月28日(金)	定例報告、新型コロナ5類化に向けての整理、『こころの保健室』体験会、法人主任研修の開催について
令和5年5月31日(水)	定例報告、ベトナム4法人、職員研修会分科会、法人係長研修の開催について
令和5年6月27日(火)	定例報告、クリエイト東茶屋内覧会、ベトナム4法人
令和5年7月25日(火)	定例報告、ベトナム視察・国際セミナー、メニコンシアター、相談支援消費税について
令和5年8月22日(火)	定例報告、8/29 近藤会長感謝の集い、規程改定
令和5年9月21日(木)	定例報告、令和5年度上半期事業報告・第二次補正予算、パート職員待遇、港ワークキャンパス製缶ライン応援について
令和5年10月24日(火)	定例報告、11月理事会・評議員会、内部監査について
令和5年11月21日(火)	定例報告、12月法人職員研修について
令和5年12月21日(木)	定例報告、年末年始について
令和6年1月22日(火)	定例報告、能登半島地震支援、補正予算、昇進・昇格の手続きについて
令和6年2月29日(木)	定例報告、3/14 理事会・3/28 評議員会・4/1 辞令式
令和6年3月21日(水)	定例報告、コンプライアンス研修、心の保健室、人事考課、所得税減税について

(2) 登記事項

法人	役員に関する事項 変更登記	令和5年7月14日登記
	令和4年度期末資産変更登記	令和5年7月14日登記
不動産(光和寮)	建物取得 表題部登記	令和5年6月22日登記
	所有権・抵当権設定登記	令和5年8月9日登記
不動産(戸田川)	建物取得 表題部登記	令和5年8月29日登記
	所有権・抵当権設定登記	令和5年10月26日登記

(3) その他

国兼基金事業

物故者慰霊祭(八事霊園) 令和5年10月14日

補正予算

- ・第一次補正予算

令和5年11月17日 理事会同意・11月30日 評議員会承認

- ・第二次補正予算

令和6年3月14日 理事会同意・3月28日 評議員会承認

職員研修(法人内部研修)

研修名	実施日	参加者数
新卒者研修	令和5年4月14日、21日、28日、5月12日、19日	参加6名
新卒者研修フォローアップ	令和4年10月20日	参加5名
法人基礎研修	令和5年4月4・5日	参加11名
法人フォローアップ研修	令和5年7月14日 令和5年8月30日	参加9名 参加11名
職員全体研修会	令和5年12月9日(Youtube配信)	-
中堅職員研修	令和5年11月8日	参加12名
主任研修	令和5年6月14日、11月14日	参加18名
係長研修	令和5年7月12日、9月8日	参加11名
コンプライアンス研修	令和6年1月19日(Zoom)	参加17名

(4) 『愛盲報恩会』

- ・助成事業として、11団体・1特別事業に総額1,180,000円の助成を行った。また、第18回近藤正秋賞・片岡好亀賞・地域活動特別賞の受賞者を選定し、令和5年12月16日に、情報文化センターにて贈呈式および受賞者記念スピーチを開催した。

<第18回表彰者>

近藤正秋賞 荒川 明宏 様(株式会社ラビット社長)

片岡好亀賞 広沢 里枝子 様(暫女唄演奏者)

地域活動特別賞 溝口 廣美 様(岐阜県視覚障害者福祉協会 事務局長)

(5) 地域交流行事

- ・新型コロナウイルス感染症は5類化されたが、継続する感染予防や計画不足のため、各拠点が主催する地域の方々をお招きする行事開催はほとんどを見送ることとした。

2月17日(土) 光和寮 地域交流会

3 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

（1）助成に関する特記事項（金額は助成額）

愛知県共同募金会	-	情報文化センター	
		ボランティア研修事業助成金	600,000 円
愛知県共同募金会	-	一般配分金	130,000 円
一般財団法人ペガサス財団	-	あちえっとほーむデジタル機器	500,000 円

（2）寄付金に関する特記事項（10万円以上の寄附者）

(株)メディアボックス 様	4,000,000 円（光和寮）
坂文種報徳会 様	500,000 円（法人本部）
近藤 正臣 様	1,500,000 円（光和寮）
故 山田 綾子 様	1,000,000 円（戸田川 GV）
日産化学(株) 様	278,000 円（明和寮）
永田 様	150,000 円（法人本部）
佐野 幹雄 様	100,000 円（法人本部）
山伸会 様	100,000 円（光和寮）
近藤 慶子 様	100,000 円（光和寮）
安藤 一弥 様	100,000 円（光和寮）
尾関 真知子 様	100,000 円（情報文化センター）
前田 様	100,000 円（法人本部）
伊藤 澄子 様	100,000 円（情報文化センター）
ほか 43 件	534,608 円
	（令和5年度 合計 8,662,608 円）

4 新型コロナウイルス感染症

5月より感染症法の第5類へ移行したことで、法人内での対策についても多くを緩和することができたが、利用者・職員全体におけるマスク着用など、一定の感染予防を継続することとなり、移行後の対応などの見直しを行った。利用者の外出支援や外部からの家族等の来訪、職員研修などの機会が大幅に増えた。しかしながら1年を通して新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が時折発生し、計画していた行事を中止せざるをえない事態になることもあった。

5 就労継続支援事業B型『豊田ワークキャンパス』

(1) 就労継続支援事業B型

- ・新たな関係機関との関係構築へ努め、利用者確保に繋がった。加えて関係機関経由で新たに特別支援学校をご紹介いただき、実習受け入れ件数が増加した。
- ・既存取引先への単価引き上げ交渉や作業量増加交渉を継続したこともあり、平均工賃が大幅アップとなった。
- ・行政との連携は具体化されることはなかったが、地域行事への参画は果たせた。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R4年度	11	6	17	17,338	195	6,327
R5年度	13	6	19	29,514	343	17,017

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

軽作業	PC解体作業、産業部品の分別(仕分け)作業
請負作業 施設外作業	商品の梱包作業・施設清掃
請負作業	ガチャガチャ商品組立・バリ取り・検品
古本 雑貨販売他	ヤフーオ・クッション・アマゾン梱包作業・地域マルシェ参加(2カ月に1回)

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R4年度	17	0	17	20
R5年度	3	1	19	20

(R5年度退所者): 就職1名

エ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R4年度	0	0	1	6	10	0	17
R5年度	0	0	1	7	10	1	19

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R4年度	16	0	0	1	0	0	0	17
R5年度	18	0	0	1	0	0	0	19

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R4年度	0	10	3	4	0	0	17	30.5歳
R5年度	1	9	4	4	0	1	19	31.7歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R4年度	212	2,319	10.9	54.7%
20	R5年度	254	3,183	12.5	62.7%

6 多機能型事業所『日進ワークキャンパス』

(1) 就労継続支援事業B型

- ・6月に光和寮の従たる事業所から単体事業所へ移行した。定員14名の就労継続支援事業B型と定員6名の就労移行事業を運営する定員20名の多機能型事業所として県より認可を受け事業開始となった
- ・10月以降、利用者確保活動および施設外作業獲得活動を方針の中心に据え、営業活動を行った。
- ・12月に3日間連続の見学会を実施した（移行と共催）。
- ・B型事業は売上予算が達成されたことから、12月には寸志支給を行った。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃（年間総支給額を月割）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R4年度	15	4	19	18,288	2,120	8,021
R5年度	13	4	17	18,394	1,016	16,258

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業	アンテナ部品組付け作業（R5年度）：92,190個 ダイレクトメール封入封緘シール貼り作業（R5年度）：163,232件 日進版施設外就労支援事業（R5年度）：217日
-----	--

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R4 年度	25	6	19	15
R5 年度	2	3	18	20

(R5 年度退所者): 2 名 (就労移行事業利用開始)

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R4 年度	0	0	0	5	14	0	19
R5 年度	0	0	0	5	12	1	18

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R4 年度	16	0	1	2	0	0	0	19
R5 年度	15	0	2	1	0	0	0	18

カ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R4 年度	2	7	2	4	3	1	19	36 歳
R5 年度	2	7	1	3	4	1	18	36 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R4 年度	229	2,920	12.7	63.7%
14	R5 年度	257	2,961	11.5	82.1%

令和 4 年度は、光和寮従たる事業所となった 5 月中旬以降の実績

令和 5 年度は、光和寮従たる事業所での 4 月・5 月の実績を含む

(2) 就労移行支援事業

- 再開となった就労移行事業は、6 月に利用者 1 名で開始し、翌年 1 月に一般就労となった。同月新たに 1 名の利用者が B 型から移行し訓練を開始した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	アセス利用	定員
R5 年度	2	1	1	7	6

B 型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定 (短期利用)

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続 A 型	就労継続 B 型	その他	合計
R5 年度	1	0	0	0	1

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R5 年度	0	0	0	0	1	0	1

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R5 年度	1	0	0	0	0	0	0	1

オ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R5 年度	0	1	0	0	0	0	1	22

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
6	R5 年度	257	201	0.8	13%

光和寮 拠点

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
生活介護事業	
施設入所支援	
就労移行支援、定着事業	『名古屋東ジョブトレーニングセンター』
福祉ホーム	『かわな』『やすだ』
同行援護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぼーと』
地域活動支援事業	『デイサービスセンター クリエイト川名』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』
共同生活援助事業	『みらいと田辺通』
就労継続支援事業 B 型	『緑風』

当年度 5 月末に光和寮デイサービス棟第 2 期工事が完了、順次引越を行い 7 月からは新デイサービス棟にて散在していた就労継続 B 型をはじめとする日中活動や相談事業、同行援護事業および事務機能を集約・一体化した事業を開始した。

『利用者に寄り添うこと』を念頭に光和寮全体で情報共有・連携に努め、日帰りレクの実施、地域の行事等に参加など利用者に楽しんでいただくことができた。

『地域に寄り添うこと』として、9 月開催の新棟開所式を通じ地域の福祉活動拠点となるよう地域の方への挨拶、関係機関への周知・見学会を実施した。

「日進ワークキャンパス」では、6 月に愛知県の指定を受け就労継続支援 B 型と就労移行事業を再スタートし、「みらいと田辺通」では世話人体制の確保・支援内容の共有・統一化に努め、5 名の入居者が楽しく安心して過ごせる生活環境を整えることができ、光和寮拠点の就労・生活環境の活性化に繋がった。

< 拠点重点項目 >

(1) 事業の活性化

- ・ 9 月に新デイサービス棟の開所式を行い、地域の方・行政機関関係者を招いての式典・見学会を実施し、地域の福祉活動拠点として周知を行った。
- ・ 就労継続 B 型と生活介護の併用利用も柔軟に受け入れることにより、両事業ともに稼働率が増加した。
- ・ 6 月に日進ワークキャンパスを単体化し、就労継続支援 B 型 14 名、就労移行支援事業 6 名で新たに展開した。
- ・ みらいと田辺通は入居者が 5 名となり、運営の安定化と共に利用者が安心した生活を送れるよう世話人体制の確保・支援内容の共有・統一化に努めた。

(2) 継続的な業務改善による組織の強化

- ・クリエイト川名と生活介護事業の統合は令和 8 年度に向けてスケジュール化、人員体制を整える準備に努めた。
- ・BCP 策定済のため、減災対策に向けて計画の継続的改善を実施した。
- ・感染予防に努めつつ、食事・送迎・会議方法等の基準を緩和し、感染時における入所施設での支援方法の見直しを行った。

(3) 建物・設備の計画的な更新

- ・5月に第2期工事完了し、7月より新デイサービス棟で就労事業、デイサービス事業、相談事業、居宅介護事業で一体的な事業運営を開始した。
- ・福祉ホームかわな耐震化工事に向けて専門業者を含めて検討を行った。
- ・当年度10月に入居棟の電源設備を計画通り更新した。

1 障害者支援施設 『光和寮』

(1) 就労継続支援事業 B 型 日進ワークキャンパス除く

- ・就労での生産計画や作業状況等の共有、売上、利益向上への取組意識により、売上予算比 111.2% と大幅に目標達成した。
- ・作業の高単価化、効率化による生産性の向上、部署連携による利益率向上の取組意識により、昨年の平均工賃を大きく上回る月額 35,000 円を達成した。
- ・新規利用者も適正な工賃額となるよう工賃評価体系を見直した。
- ・作業現場で、利用者が安心した環境と作業効率が図れる環境づくりを行った。
- ・職員間で毎日のミーティングを実施し、各現場の状況や利用者支援、連絡事項等が共有できる体制を作り上げ、細やかな就労生産体制や支援体制が確立できた。
- ・就労部門内部において、「利用者工賃(評価改定)」「新規利用者受入れ」「日中支援(拠点内・外)」「営業(物量調整・生産管理)」のチームを作り、それぞれの課題と今後の生産、支援強化に向けて取組んだ。

【以下、各部署の状況】

- ・治療部は、衛生面を重視して新型コロナが 5 類に分類されて以降も顧客に対して検温をお願いしてきた。顧客からの要望がある営業時間延長は体制等が整備できず最終受付を 19 時半に戻すことはできなかった。売上については昭和区外から来店する方が減り目標達成はできなかったが、来客数や客単価等は前年を上回った。
- ・印刷科では、既存顧客からの案件の獲得拡大、新規顧客開拓を目指した営業活動を行うことで、案件獲得が増加した。人員体制が厳しい中、部署内での体制の強化、他部署や他拠点との連携の強化、外注先の選定を図り、前年比で 240 万円超の売上げ増となり、目標を達成した。
- ・部品加工科は、適宜作業の見直しを行うと同時に既存のダイレクトメール封入封緘作業の拡大や作業の効率化により、前年度より売上が増え目標達成することができた。利用者ニーズの多様化、利用者層の多様化に対応する為に勉強会を実施し障害

理解を深め、より良い支援に繋がるよう努めた。また様々な利用者ニーズ把握に努め在宅訓練や生活介護との併用を進めるなど柔軟に対応した。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R3年度	56	24	80	R3年度 平均		33,278
R4年度	61	25	84	R4年度 平均		30,993
R5年度	56	28	84	R5年度 平均		35,218
治療部	5	4	9	173,178	43,121	65,427
印刷科	4	5	9	108,900	26,086	54,474
部品加工科	47	19	66	67,777	5,075	27,351

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

治療部	年間の来院数 2,563人 年間の新規来院数 70名 1顧客あたりの平均単価 2,982円
印刷科	冊子:173,157冊 封筒印刷:502,180枚 録音速記:101時間 名刺印刷:119,300枚(内点字名刺:19,980枚)
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け、ペン加工作業:850,000個 イベントグッズ検品作業:270,000個 ダイレクトメール封入封緘シール貼り作業:1,500,000件

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	14	12	80	80
R4年度	9	5	84	
R5年度	9	9	84	

(R5年度退所者):一般就労1名、就労系施設5名、高齢者施設1名、その他2名

エ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	36	25	1	20	7	0	80(9)
R4年度	40	25	0	22	8	0	84(11)
R5年度	38	22	2	29	8	0	84(15)

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	25	1	10	31	12	1	0	80
R4 年度	23	1	11	29	18	1	1	84
R5 年度	22	1	7	28	24	1	1	84

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R3 年度	2	5	13	13	19	28	80	50.8 歳
R4 年度	2	8	14	14	17	29	84	50.9 歳
R5 年度	2	10	16	14	18	24	84	50.8 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
80	R3 年度	257	17,681	68.8	85.9%
	R4 年度	259	18,165	70.1	87.7%
	R5 年度	257	18,779	73.1	91.3%

(2) 生活介護事業

- ・入浴希望の利用者を積極的に受け入れ、利用者確保に繋げた。就労継続 B 型と連携し、特別支援学校向けの実習案内や土曜日の体験会を継続して実施し、新卒の利用者確保を図った。医療行為や入浴などに対応可能であることを情報発信し、重度利用者の受け入れ強化を図った。3 月末現在、7 名（男性 4 名、女性 3 名）の入浴支援を実施している。また、個別支援計画の見直しを通じて支援のポイントの再確認を行い、支援力と介護技術の向上を図った。
- ・定期開催までは至っていないが、部署での勉強会を実施し共通の問題点等に検討する機会を設けた。
- ・利用者の状況等に応じて入浴方法や介助方法、時間帯等を全体で検討し、入浴希望者に対しての適切な支援の実現に努めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	5	4	28	20
R4 年度	10	1	37	
R5 年度	5	5	37	
(R5 年度退所者) : 他施設利用 3 名 介護保険移行 1 名 死亡 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	12	9	2	16	3	0	28(14)
R4 年度	13	14	2	22	4	0	37(18)
R5 年度	10	14	2	21	5	0	37(15)

（ ）内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3 年度	0	0	1	4	10	4	9	28
R4 年度	0	0	2	4	12	7	12	37
R5 年度	0	0	1	3	14	7	12	37

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3 年度	0	10	3	5	4	6	28	43.8 歳
R4 年度	6	5	9	5	4	8	37	39.4 歳
R5 年度	1	11	8	3	3	11	37	41.2 歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R3 年度	244	3,409	14.0	69.9%
	R4 年度	244	4,296	17.6	88.0%
	R5 年度	253	4,627	18.3	91.4%

カ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
活動補助	154 名
音楽講師	42 名
マッサージ	11 名
健康体操	12 名
笑いヨガ	12 名

(3) 施設入所支援

- ・ 食堂クロスの全面張り替え工事を行い、食堂に明るい雰囲気生まれ、衛生面においても、利用者が安心して食事をすることができる空間を提供することができた。
- ・ 生活支援員の役割に応じた業務説明や研修への参加を促し、各分野での理解を深めることで支援体制を強化することができた。
- ・ 新規職員を中心に、避難訓練への参加を呼びかけるとともに、設備の説明や災害時

の対応に関する防災講習を行った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	3	3	26	32
R4年度	0	1	24	
R5年度	3	2	25	
(R5年度退所者): 老人ホーム1名、盲養護老人ホーム1名				

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	13	9	0	8	2	0	26(6)
R4年度	12	9	0	8	1	0	24(6)
R5年度	12	8	0	11	1	0	25(7)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	0	0	2	15	9	0	0	26
R4年度	0	0	2	12	10	0	0	24
R5年度	0	0	2	13	10	0	0	25

エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	1	1	3	4	10	7	26	51.3歳
R4年度	0	1	3	4	9	7	24	53.1歳
R5年度	0	1	3	5	9	7	25	52.5歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
32	R3年度	365	8,432	23.1	72.2%
	R4年度	365	8,828	24.2	75.6%
	R5年度	366	8,820	24.1	75.3%

カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
外出ボラ	13名

2 『名古屋東ジョブトレーニングセンター』

(1) 就労移行支援事業

- ・チームとして多様な障害への対応力は増え、就職前準備から就職まで結びつけることができるようになってきた。第4期3か年計画における3年目は育成を軸としたことに対して一定の達成はできたといえる。一方で、利用者数の減少を招き、「支援力アップ=経営上の安定」という点では不十分な状況であるため、利用稼働率の安定化にもつなげるような体制に見直した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	アセス利用	定員
R3年度	14	19	23	3	20
R4年度	11	17	17	7	
R5年度	9	13	13	6	

B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定(短期利用)

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
R3年度	12	1	1	5	19
R4年度	13	2	0	2	17
R5年度	7	3	0	3	13

ウ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	1	0	0	15	8	0	23(1)
R4年度	2	0	0	11	4	0	17
R5年度	2	0	0	10	2	0	13(1)

()内は重複障害再掲

エ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	21	0	0	1	1	0	0	23
R4年度	12	0	2	1	1	1	0	17
R5年度	9	0	2	1	1	0	0	13

オ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	3	16	3	1	0	0	23	24.6歳
R4年度	0	14	0	1	2	0	17	28.0歳
R5年度	0	8	2	1	2	0	13	33.1歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R3年度	260	5,579	21.5	107.3%
	R4年度	261	4,952	19.0	94.9%
	R5年度	257	3,072	12.0	59.8%

(2) 就労定着支援事業

- ・前年度同様に安定的な実績を出すことができた。一方で管理側の担う割合も就労移行支援同様に多いため、一体的に担っている県ジョブコーチ事業において支援や支援後事務処理に割く時間が不足し、当年度実績は前年度比で3分の1程度までの落ち込みとなった。

ア 登録および利用状況

	年度登録者	年度解除者	期末登録者	延べ利用実績数
R3年度	6	14	25	341
R4年度	11	12	24	285
R5年度	12	11	25	296

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	3	1	1	17	6	0	25(3)
R4年度	1	1	0	13	10	0	24(1)
R5年度	1	2	0	12	12	0	25(2)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	22	0	1	1	1	0	0	25
R4年度	20	1	1	2	0	0	0	24
R5年度	17	1	1	5	1	0	0	25

エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	0	20	4	0	1	0	25	25.8歳
R4年度	0	21	1	1	1	0	24	25.4歳
R5年度	1	15	5	2	2	0	25	29.5歳

3 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

(1)『かわな』

- ・地域で生活できるように、福祉ホーム入居者への公営住宅等の定期的な情報提供を随時行った。結果として1名が地域移行として公営住宅に入居となった。
- ・関係機関に利用者募集のPRを行い、1名の新規入居に繋がった。
- ・空室を感染症対策として使用したため、当年度は地域移行体験の実施は見合わせとなった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	2	0	14	15
R4年度	1	3	12	
R5年度	1	2	11	
(R5年度退所者): 市営住宅1名、盲養護老人ホーム1名				

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	8	6	0	1	0	0	14(1)
R4年度	7	5	0	1	0	0	12(1)
R5年度	6	4	1	2	0	0	11(2)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	2	0	3	7	2	0	0	14
R4年度	2	0	2	6	2	0	0	12
R5年度	2	0	0	7	2	0	0	11

エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	0	2	1	2	3	6	14	52.6歳
R4年度	0	1	1	2	3	5	12	54.8歳
R5年度	0	1	1	3	3	3	11	51.6歳

(2)『やすだ』

- ・家族の高齢化により、家族以外による支援が必要となった利用者には介護保険への移行とともにヘルパーを活用した生活の安定を図った。
- ・高齢の利用者へは本人の状況に合わせて適切な施設への手続きを進めるとともに、関係機関やサービス事業所との調整を支援した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	1	3	8	11
R4年度	1	0	9	
R5年度	0	2	7	
(R5年度退所者): 入院1名、有料老人ホーム1名				

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	1	7	0	0	0	0	8
R4年度	1	8	0	0	0	0	9
R5年度	1	6	0	0	0	0	7

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	2	0	1	4	1	0	0	8
R4年度	3	0	0	3	3	0	0	9
R5年度	3	0	0	2	2	0	0	7

エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	0	0	2	2	2	2	8	49.4歳
R4年度	1	0	2	2	2	2	9	46.7歳
R5年度	0	0	2	1	3	1	7	48.5歳

4 同行援護・移動支援事業 『ガイドネットあいさぽーと』

- ・利用者の外出機会が増えたことで活動依頼も増加。延べ活動時間が月平均550時間を超え、目標を大きく超える活動実績となった。年2回、ヘルパーの勉強会(情報提供の方法)・懇談会を行い、問題点の共有・支援力の向上を図った。
- ・事業所の体制上、利用者数を制限する必要があり、新規利用者確保については慎重になりながらも可能な限り対応を行った。

ア 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	56	4	0	4	0	3	57(10)
R4年度	57	4	0	4	0	5	58(12)
R5年度	54	3	0	4	0	4	55(10)

()内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	3	3	10	23	14	4	0	57
R4年度	3	1	4	25	19	6	0	58
R5年度	3	1	2	23	21	5	0	55

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	2	3	1	4	8	39	57	66.6歳
R4年度	0	4	1	5	7	41	58	69.0歳
R5年度	0	5	1	5	8	36	55	66.9歳

エ 活動実績時間数（月平均）

	移動支援	同行援護
R3年度	8.5時間	409時間
R4年度	1.8時間	524時間
R5年度	0時間	554時間

5 地域活動支援事業 『デイサービスセンター クリエイト川名』

- ・利用者の高齢化もあり体調不良などの欠席者が多く、収支状況を改善させることができなかった。職員体制が安定しない期間が続いたが、職員間の業務分担を明確にし、新人職員の役割の進捗確認を行うことでフォロー体制を取り、担当業務を拡大させることができた。
- ・既存の特別企画の見直し（土曜日の特別企画の出席率の低下が見られたため）や陶芸活動の再開など、魅力ある活動の実施に努めた。具体的には、調理、おやつ作りの実施、地域の薬局と連携した健康チェック開催など参加者増に繋がった。
- ・生活介護への事業移行については、利用者をはじめ関係機関への説明など進展させることができなかった。今後、2年間で段階的に準備を進め実現させる。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	2	1	55	19
R4年度	6	3	58	
R5年度	3	4	57	

（R5年度退所者）：施設入所1名、長期入院1名、死去2名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	55	1	1	1	1	0	55(4)
R4 年度	58	1	1	1	1	0	58(4)
R5 年度	57	1	0	1	0	0	57(2)

()内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3 年度	0	1	1	2	4	47	55	70.2 歳
R4 年度	0	0	2	2	3	51	58	70.9 歳
R5 年度	0	0	3	2	2	50	57	71.2 歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
19	R3 年度	242	3,076	12.7	66.9%
	R4 年度	240	3,439	14.3	75.4%
	R5 年度	249	3,650	14.7	77.2%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
活動補助	420 名
陶芸	65 名
体操講師	24 名

6 相談支援事業 『光和障害者相談センター』

- ・6月に新デイ棟内に転居したことで拠点・地域の連携強化、スキルアップを目的に各チームを編成し、光和寮拠点での交流企画の開催や地域の関係機関訪問を継続して行った。
- ・地域移行支援として、精神科病院及び施設入所支援利用者の5件の取り組みと精神科病院からの3件の地域移行を達成した。
- ・事業の適正化に向けて、全ケースの記録物などの棚卸確認を行った。また請求事務精度向上の検討をすすめ、次年度より運用する。相談員向け研修の開催や複数人体制でケースの進捗や管理を行える体制を継続して検討していく。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R3 年度	414	918	398	16
R4 年度	537	1,063	524	29
R5 年度	549	1,276	434	13

7 共同生活援助事業『みらいと田辺通』

- ・各家族との定期的な面談や家族交流会を実施し、生活課題や支援、環境について希望の聴き取りを行い、職員間で共有することで日頃の支援内容の充実に繋げた。
- ・書面化した支援記録や支援日誌を設置して、職員が情報を閲覧しやすい環境を整え、支援の統一化に努めた。
- ・食事内容の向上と年3回の行事を行い生活の質と満足度の向上に努めた。
- ・対象を絞った広報活動を行い、10月より1名の新規利用者が入居となった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R4 年度	4	0	4	6
R5 年度	1	0	5	6

(R5 年度退所者): なし

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R4 年度	0	0	0	4	0	0	4
R5 年度	0	0	0	5	0	0	5

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R4 年度	0	0	0	3	0	1	0	4
R5 年度	0	0	0	3	1	1	0	5

エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R4 年度	0	1	1	2	0	0	4	37.7 歳
R5 年度	0	2	1	2	0	0	5	36.8 歳

才 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
6	R4 年度	136	386	2.8	47.3%
	R5 年度	366	1,233	3.4	56.1%

- 2 緑風

1 就労継続支援事業 B 型 『緑風』

- ・生産活動では受注量が増加し年間売上は前年度比 110%となるものの、下期では主要取引先の受注量が大幅に低下し、売上予算の達成には至らなかった。
- ・天白特別支援学校の事業所フェスティバルの運営に参画し、学生の進路を考えるための情報提供に協力した。また、学生への施設体験の機会も設けるなど、そうした公益的な動きに比例し、特別支援学校卒の利用者が増え、利用稼働率も上昇する一因となった。
- ・作業支援では利用者の適性に合った作業を提供すると共に、治具を適宜作成して個々が取り組める作業の幅を広げることで生産量の増加につなげた。
- ・個別支援計画に則った支援を強化するため、個別支援計画担当者に一本化することで、内容を修正・改善させ、適正な個別支援計画の運用が可能となった。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R3 年度	43	15	58	28,511	4,099	10,193
R4 年度	39	14	53	30,737	5,479	10,380
R5 年度	41	16	57	30,275	3,096	12,865

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5 年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業(生産物等)の状況(概要)

軽作業	下請け作業としての生産種別 ・くまで組立：12,000 本・ほうき組立：25,000 個 ・DM 封入封緘作業・DM チラシ折り・シーラー加工 ・フィットサック袋入れ・シール貼り・タオル畳み ・工業製品バリ取り・タグ紐付け 施設外作業(清掃業務)年間 228 日
-----	--

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	10	3	58	40
R4 年度	3	8	53	
R5 年度	8	4	57	
(R5 年度退所者): 就労移行支援 1 名、生活介護事業 1 名、在宅 2 名				

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	4	17	1	33	11	0	58(8)
R4 年度	4	15	0	35	12	0	53(13)
R5 年度	4	15	0	33	16	0	57(11)

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	19	1	6	11	14	5	2	58
R4 年度	17	2	6	10	13	4	1	53
R5 年度	19	2	6	11	13	4	2	57

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R3 年度	2	17	7	9	15	8	58	41.5 歳
R4 年度	0	15	7	7	17	7	53	43.1 歳
R5 年度	2	13	7	8	19	8	57	44.3 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	R3 年度	252	9,815	38.9	97.3%
	R4 年度	258	10,287	39.8	99.6%
	R5 年度	258	11,197	43.4	108.5%

ク ボランティア活動状況

- ・新型コロナウイルス感染症が感染症 5 類に移行した令和 5 年 5 月から活動を再開させた。毎週延べ 4 名（年間延べ 148 名）が定期的にボランティア活動へ参加され、利用者と一緒に作業に取り組まれている。

明和寮 拠点

障害福祉サービス事業	『明和寮』（多機能型）
就労継続支援事業 B 型	ビーサポート
生活介護事業 （共生型 地域密着型 通所介護）	ぷちとまと
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
就労定着支援事業	『明和定着支援事業』
福祉ホーム	『あかり』・『黎明荘』
同行援護・重度訪問介護等事業	『みなとガイドネット』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』
就労継続支援 B 型	『津島ワークキャンパス』

当年度は津島ワークキャンパスが1年を通して運営される年度となったが、予定通りの運営ができ、次年度に上手くつなげられる感触で終えることができた。また、明和障害者相談センターや生活介護事業「ぷちとまと」、それぞれの移転合併についても大きな問題なく行なうことができた。この動きの中で更に就労支援色の強くなった明和寮拠点であるが、津島ワークキャンパスでは「就職のできる B 型」、ビーサポートについては港ワークキャンパスとの連携を強める中で「高付加価値による高工賃を支給できる B 型」という特色を持つことができた。ただし、利用稼働率が伸び悩んでいる事実もあるため、その特色を PR していくと共に、新たな利用者像を受け入れる検討も始めなければならないと感じる一年となった。

< 拠点重点項目 >

（ 1 ）事業の活性化

- ・ビーサポート包装加工科の拡大については取引先のご厚意で真空成型機の増設まで計画することができた。また、下請け作業主体の事業から利益率の高い施設外就労として、廃棄物処理のリサイクル科と清掃作業のジョブクリーンサービスを2事業スタートさせることができた。
- ・港ジョブトレーニングセンターでは知的・自閉症への支援力の高い事業所として運営することを決め、それに沿った訓練カリキュラム等を外部にアピールし、次年度以降の安定運営につなげることにした。
- ・生産型生活介護への移行を取り止め、利用者のシームレスなステップアップを考え、就労継続 B 型事業内に同様の科を創設することで検討を進めたが、次年度への継続検討となった。

（ 2 ）継続的な業務改善による組織の強化

- ・新型コロナウイルスによる制限が少なくなる中で、数年来中止されてきた様々な業務について、改めて手順や使用する様式の共有・統一を図ってきたが、全体に浸透させるこ

とまではできなかった。次年度に向けて、職員異動等を踏まえ再度体制を整える。
 ・勤怠タイムカードのデジタル化については津島ワークキャンパスにおいて運用が進みつつある状況で当年度を終えることとなった。明和寮については現状のタイムカードによる運用にも課題があり、まずは管理手順を徹底するに留まった。

(3) 建物・設備の計画的な更新

- ・福祉ホームあかりの中庭スペース活用については費用対効果が見込めず、樹木の伐採と不用品の整理に留まった。旧陶芸小屋については、就労継続 B 型で始動したジョブクリーンサービスの作業場として活用を始めた。
- ・ビーサポート 包装加工科のプレス機整備については自己資金にて整備した。
- ・全照明設備の LED 化については港ワークキャンパスと同時に実施することでスケールメリットを活かし、安価に整備することができた。

1 障害福祉サービス事業 『明和寮』(多機能型)

(1) 就労継続支援事業 B 型 「ビーサポート」

- ・予定していた包装加工科の拡大については上半期においてほぼ完了したが取引先の好意で真空成型機譲渡が決まり、下半期より急遽、第二次拡大計画を進めた。完了は次年度となるが、この拡大計画により新規作業アイテムを 10 種類以上受注できるため、更なる売り上げを見込むことができることとなった。
- ・施設外就労については、就労移行支援事業と共同で清掃作業を行なうジョブクリーンサービス事業をスタートした。また、港ワークキャンパスの協力による株式会社アビツでの廃棄物処理事業も正式稼働し、両事業において高付加価値の「稼ぐ事業」展開することができた。しかし、両事業ともに、事業に適した利用者の確保が進まず、大きな課題を残している。
- ・次年度よりトイレ介助や送迎を必要とする利用者の受け入れを決めていることから新たな環境づくりを検討してきた。現段階では組立加工科において受け入れられる環境整備を行ない、生産型生活介護として提供する予定であった支援環境の整備は次年度への継続検討とした。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R3 年度	83	27	110	令和 3 年度 平均		48,383
R4 年度	83	27	110	令和 4 年度 平均		47,336
R5 年度	76	29	105	令和 5 年度 平均		52,725
印刷事業	2	0	2	78,345	15,800	45,343
組立加工事業	60	19	79	83,274	3,474	44,608
包装加工事業	15	6	21	130,830	3,939	45,623
リサイクル科	1	2	3	74,033	28,492	48,055

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。
R5 年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

リサイクル科は令和 5 年 4 月より開設

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

印刷科	冊子 1,000,284 部 チラシ 4,572,688 枚 封筒 940,033 枚 名刺 7,403 枚 帳票 1,735,468 部 はがき類 6,679 枚 その他 868,130 部 封入・封緘 42,602 セット
組立加工科	タンク並べ 11,673,011 個 防水キャップ 29,039 個 ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 4,166,358 セット バインダー組付け 2,657,621 個 ピロー包装 2,086,456 個
包装加工科	プラスチック真空成型加工 真空成型加工及びスライドプリスター（折り曲げ）加工 スライドプリスター（折り曲げ）加工 合計 7,100,877 枚
リサイクル科	日常清掃 106 回 特別清掃 3 回 かえるモン 582 件 (付随事業)自販機設置協力事業所 36 社 設置台数 43 台

ウ 入退所

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	17	13	110	100
R4 年度	10	10	110	
R5 年度	13	18	105	

(R5 年度退所者): 一般就労 7 名、就労 A 型 1 名、他 B 型 5 名、自宅療養 1 名、介護保険サービス利用 2 名、入院 1 名、死亡 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	25	49	0	37	12	0	110(13)
R4 年度	27	46	2	35	14	0	110(14)
R5 年度	19	48	3	36	13	0	105(14)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	40	0	12	30	26	2	0	110
R4 年度	38	0	12	31	26	3	0	110
R5 年度	33	0	9	32	28	3	0	105

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	6	19	7	17	30	31	110	48.0歳
R4年度	1	22	5	15	31	36	110	51.5歳
R5年度	4	22	5	14	26	34	105	49.4歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
100	R3年度	257	23,539	91.6	91.6%
	R4年度	258	23,480	91.1	91.1%
	R5年度	255	22,546	88.4	88.4%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
行事協力	0	
頭髮カット	3	ビューティーかわむら 7/10、10/30、1/22、
クラブ活動支援	0	感染症のため活動中止

(2) 生活介護事業（共生型 地域密着型通所介護） 「ぷちとまと」

- ・令和5年8月末をもって、戸田川グリーンヴィレッジ木の香との統合により、港区東茶屋にて「クリエイト東茶屋」として9月より始動。明和寮生活介護事業は閉所とした

以下表ア～オ R5年度は4月から8月までの数値

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3年度	2	1	25	12
R4年度	0	3	22	
R5年度	1	23	0	

(R5年度退所者): 移転19名、介護保険移行2名、他サービス利用2名

生活介護事業・共生型地域密着型通所介護事業で合計した定員数

イ 障害別状況（8月末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	3	19	0	16	0	0	26(12)
R4年度	3	16	0	15	0	0	22(12)
R5年度	3	17	0	16	0	0	23(13)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（8月末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	1	0	1	1	3	5	14	25
R4年度	1	0	0	1	3	5	12	22
R5年度	1	0	0	1	4	5	12	23

エ 年齢構成（8月末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	2	6	6	5	4	2	25	34.0歳
R4年度	2	6	6	5	2	1	22	30.9歳
R5年度	3	6	6	5	2	1	23	30歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
12	R3年度	248	2,898	11.8	98.3%
	R4年度	228	2,596	11.4	95.0%
	R5年度	102	1,146	11.2	93.6%

(3) 就労移行支援事業 「港ジョブトレーニングセンター」

- ・精神・発達障害の支援力向上を目指す計画としてきたが、小規模ながらも知的・自閉症の支援力の高い事業所として運営することに決め、下半期からは自閉症アセスメントツール TTAP の導入に向け、職員研修、関係機関への PR を行なった。
- ・清掃作業による就職を目指せる訓練カリキュラムとしてジョブクリーンサービスをビルメンテ大手の太平ビルサービス株式会社の協力の下でスタートした。また、ピーサポートと共同の事業となることから施設外就労での実地訓練も取り入れた事業として活動を進めた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	アセス利用	定員
R3年度	8	12	12	11	14
R4年度	9	11	10	14	
R5年度	11	11	10	8	

B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
R3年度	8	0	3	1	12
R4年度	9	0	2	0	11
R5年度	9	1	1	0	11

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	0	0	0	7	5	0	12
R4 年度	0	0	0	4	6	0	10
R5 年度	0	0	0	8	2	0	10

（ ）内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	7	0	1	3	1	0	0	12
R4 年度	6	0	0	4	0	0	0	10
R5 年度	7	0	0	3	0	0	0	10

オ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R3 年度	3	5	0	3	1	0	12	29.9 歳
R4 年度	2	6	0	1	1	0	10	26.8 歳
R5 年度	2	6	2	0	0	0	10	23.6 歳

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
14	R3 年度	250	3,505	14.1	100%
	R4 年度	259	2,687	10.3	74.1%
	R5 年度	258	2,996	11.6	82.9%

R3 年度：実施日に新型コロナ休業 8 日間を含めず

2 就労定着支援事業『明和定着支援事業』

- ・海部障害者就業・生活支援センターとの連携により他法人の定着支援を 2 名契約した。次年度は更にその数を増やし、事業安定化を進める。
- ・新たな展開として、定着支援事業として契約はできないが、ジョブクリーンサービスが施設外就労で清掃作業を行う企業にて、働く障害者の方の安定就労につながるフォローアップを担い、施設外就労先企業との関係をより強固にすることができた。

ア 登録および利用状況

	年度登録者	年度解除者	期末登録者	延べ利用実績数
R3 年度	1	5	14	194
R4 年度	9	8	15	162
R5 年度	8	8	15	176

(R5 年度解除者): 期間満了解約者 6 名、退職者 1 名、県外移転 1 名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	0	0	1	10	3	0	14
R4 年度	0	0	0	9	6	0	15
R5 年度	0	1	0	8	6	0	15

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	13	0	0	1	0	0	0	14
R4 年度	12	0	1	2	0	0	0	15
R5 年度	11	0	1	2	1	0	0	15

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R3 年度	0	12	1	1	0	0	14	25.1 歳
R4 年度	0	14	0	1	0	0	15	24.0 歳
R5 年度	0	11	2	1	1	0	15	26.6 歳

3 福祉ホーム 『あかり』・『黎明荘』

- ・福祉ホーム黎明荘の一室を地域移行訓練の場として整備した。令和 6 年 4 月より希望者の入居も決まったため、地域移行支援を実施していく。
- ・障害と年齢に合わせた「この先」への支援として、盲養護老人ホーム 2 件の見学を進め、この先を考えるきっかけとしていただいた。

(1) あかり

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	3	5	36	40
R4 年度	1	1	36	
R5 年度	2	2	36	
(R5 年度退所者): 入院 1 名 地域移行 1 名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	12	24	0	5	1	0	36(6)
R4 年度	12	24	0	4	1	0	36(5)
R5 年度	12	24	0	4	1	0	36(5)

() 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	10	0	2	12	11	1	0	36
R4年度	7	0	3	14	11	1	0	36
R5年度	6	0	4	14	11	1	0	36

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	1	6	1	4	13	11	36	50.9歳
R4年度	0	8	0	4	11	13	36	51.1歳
R5年度	0	7	1	6	11	11	36	50.6歳

(2) 黎明荘

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	0	0	4	8
R4年度	0	0	4	
R5年度	0	1	3	
(R5年度退所者)あかりへ移行1名				

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	1	3	0	0	0	0	4
R4年度	1	3	0	0	0	0	4
R5年度	1	2	0	0	0	0	3

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	0	0	1	3	0	0	0	4
R4年度	0	0	1	3	0	0	0	4
R5年度	0	0	0	3	0	0	0	3

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	0	0	1	1	1	1	4	51.2歳
R4年度	0	0	1	1	1	1	4	52.2歳
R5年度	0	0	0	1	1	1	3	57.6歳

4 同行援護・重度訪問介護等事業 『みなとガイドネット』

- ・新型コロナ等、感染症への対策が変化する中で、徐々にではあるが余暇外出される利用者が増え、活動も増え始める一年となった。
- ・今期はケガによるヘルパー離脱が多く、ヘルパーの離脱が重なった際は、日程調整に苦慮することもあったがヘルパー・利用者に協力を頂き乗り切ることができた。
- ・内部研修については虐待防止の研修を企画したが、施設内で新型コロナ感染が流行ったタイミングと重なり中止することになった。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	32	21	0	5	0	0	58
R4 年度	29	21	0	3	0	0	53
R5 年度	28	17	0	4	0	0	49

イ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	6	1	7	18	10	8	8	58
R4 年度	5	1	5	16	11	7	8	53
R5 年度	5	1	3	14	12	7	7	49

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3 年度	0	6	1	8	16	27	58	54.6 歳
R4 年度	0	5	1	8	13	26	53	51.1 歳
R5 年度	0	4	1	7	14	23	49	59.7 歳

エ 活動実績時間数（月平均）

	重度訪問介護	移動支援	居宅介護	同行援護
R3 年度	176.5 時間	18.6 時間	63.3 時間	339.3 時間
R4 年度	178.9 時間	13.9 時間	62.0 時間	341.9 時間
R5 年度	180.0 時間	16.0 時間	55.4 時間	370.0 時間

5 障害者就業・生活支援センター事業 『海部障害者就業・生活支援センター』

- ・ハローワークと共同して企業支援を強化、新規企業開拓による求人確保も順調に進めることができ、企業と求職者のマッチングを円滑に進めることができた。その結果、ハローワーク津島所管内企業においては、法定雇用率の 2.3% をクリアし 2.4% を超える結果を残すことができ、労働局・ハローワークからの更なる信頼を得るこ

とができた。

- ・津島ワークキャンパスのコンセプトでもある就職できる就労継続 B 型を実現させるため、密に連携して就業支援を行うことができた。結果として当年度 10 人の企業就職者輩出に貢献できた。
- ・弥富市に対し、就業を希望する障害のある方の相談や障害者雇用を進める企業の声を少しでも多く拾うことができる出張相談窓口の立ち上げを提案し、10 月より市役所内に設置することができた。

ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数（手段別） (件)

センターへの来所（本人の他、家族等も含む）	415
電話・Fax・E-mail	2,770
職場訪問（定着支援の他、職場実習支援を含む）	342
家庭・入所施設への訪問	149
その他（ハローワーク・行政機関・事業所見学等への同行他）	186
合計	3,862

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数（内容別）（ ）内は前年度実績（件）

		身体	知的	精神	発達	難病	高次脳	その他	合計
令和 3 年度		113	1,158	1,969	43	17	24	46	3,370
令和 4 年度		227	1,071	2,129	19	3	35	3	3,487
令和 5 年度		353	1,282	2,136	16	24	41	10	3,862
令和 5 年度内訳	就職に向けた相談・支援	251 (157)	363 (286)	1025 (889)	0 (7)	18 (3)	1 (3)	10 (1)	1,668 (1,346)
	職場定着に向けた相談・支援	65 (34)	744 (569)	806 (745)	15 (10)	1 (0)	35 (28)	0 (1)	1,666 (1,387)
	日常生活、社会生活に関する相談・支援	21 (10)	88 (49)	161 (140)	1 (0)	4 (0)	2 (2)	0 (0)	277 (201)
	就業と生活の両方にわたる相談・支援	16 (26)	87 (167)	144 (355)	0 (2)	1 (0)	3 (2)	0 (1)	251 (553)

ウ 相談・支援後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
R3年度	44	6	3	5	58
R4年度	48	8	5	5	66
R5年度	41	6	13	12	72
その他：あま市役所 1名、津島市役所 1名、名古屋地方裁判所 1名、愛知県教育委員会 9名（愛西市立草平小学校 1名、愛西市立開治小学校 1名、蟹江町役場 3名、愛知県立津島高等学校 1名、愛西市立佐織中学校 1名、愛知県立佐織特別支援学校 1名、愛知県立海翔高等学校 1名）					

6 就労継続支援事業B型『津島ワークキャンパス』

- ・令和4年12月に事業をスタートして、実質初年度となる1年を終えて就職者数11名（企業10名、A型1名）を輩出し、就職できるB型というコンセプトが概ね実現できた（令和6年度 就労移行体制加算対象者5名）。
- ・事業所2階での作業を開始し、障害特性に応じた配慮が適切に行える環境を整え、幅広い利用者の確保に繋げることができた。
- ・就職者を輩出しつつ利用稼働率90%を目標に立てたが86.9%と未達となった。就労活動収支についても安定した作業が確保できず売上が伸び悩んだ。
- ・地域に向け駄菓子屋と学習支援スペースを設ける地域貢献活動「いろいろ」の次年度スタートに向けて準備を進めるとともに、市議会議員、地域コミュニティ、関係機関、行政等への広報活動を行い協力が得られる状況を作ることができた。

ア 工賃支払状況

科目	在籍者(名)			工賃（年間総支給額の月割）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R4年度	11	9	20	37,225	2,000	19,890
R5年度	23	19	21	39,226	1,000	25,037

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業	アンケート入力・集計作業 10件 データ入力作業 90,472文字 ホワイトボード検品・組立・梱包作業 5,890セット かえるモン事務作業 12か月分 ラベル貼り作業 9,600本 アルミ皿製造作業 22,200枚
-----	---

発送代行作業 8,446 件 メルカリ販売 47 件 電池産廃処理作業 7,000 本 (10 個 / 本) 封筒検品・袋詰め作業 57,900 袋 バリ取り作業 2,854 個 暖ケット袋詰め作業 480 袋 優先調達印刷物見積作成・納品 7 件
--

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R4 年度	22	2	20	20
R5 年度	23	22	21	20
(R5 年度退所者): 一般就業 13 名 (うち 3 名は令和 6 年度就職者)、A 型移行 1 名、自己都合 8 名				

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R4 年度	0	1	0	4	17	0	20(2)
R5 年度	0	1	1	5	14	0	21

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R4 年度	16	0	1	2	1	0	0	20
R5 年度	17	0	1	3	0	0	0	21

カ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R4 年度	1	6	7	5	1	0	20	33.6 歳
R5 年度	1	7	5	5	3	0	21	35.9 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R4 年度	83	954	11.5	57.5%
	R5 年度	253	4,397	17.4	86.9%

港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター、かんせい工房、あおなみキャンパス
福祉ホーム	『みなと』

物価高騰などの社会情勢により非常食（パン缶）の売上に関しては伸び悩んだ部分はあったが、新しく開始したクッキー事業や受注増となったブリキ缶の売上を伸ばし、全体的にはほぼ計画通りの着地となる一年であった。

また、クッキー事業とブリキ缶については、次年度には各機器整備が完了する予定で更に効率の良い量産体制が構築されることもあり、当年度よりも期待が持てる状況となっている。利用者確保についても地道ではあるが情報ツール（SNS等）の強化を図り、施設のPR幅を増やすことができているため、当年度は個々の事業の目標を達成するだけでなく、施設全体的として次年度に向けた準備も同時に意識できた一年となった。次年度の課題としては、各機器整備に伴う作業場の配置換え及び人員の編成である。様々なシミュレーションを実施し効果の高い戦略を練っていく。

< 拠点重点項目 >

(1) 事業の活性化

- ・A型事業のブリキ缶については、大型の新規案件が下半期から動き出したため大幅に売り上げを伸ばすことができた。
- ・施設外就労については、体制変更をしたことで下半期から売上を平年標準まで回復することができたが、上半期のマイナス分をカバーするまでは至らなかった。
- ・B型事業については、上半期はパン缶の売上が伸び悩んでいたが、1月の能登半島地震と繁忙期が重なり、1～3月の出荷が大幅に増加した。製品在庫が不足する中、作業環境、作業効率の改善を図り対応することができたが来期に向けた課題も多く見受けられた。
- ・新規事業のクッキー製造を開始したことで、食品関係の作業の幅が広がり幅広い利用者の就労ニーズに応えることができる体制の構築に繋がった。
- ・家族・関係機関とのコミュニケーションの強化を図るために、SNSを用い双方向でつながる仕組みを構築し、まずは実習や見学に来てもらえるよう情報発信を行った。

(2) 新型コロナウイルス等感染予防対策の継続実施

- ・新型コロナウイルス感染症の分類が5類となって以降も日常的な感染症予防対策は継続して実施し、クラスター等、感染者からの拡大を防ぐことができている。
- ・事業継続計画（BCP）の更新作業を完了。関係者への周知を行った。

(3) 建物・設備の計画的な更新

- ・8月末に施設全体のLED照明切り替え工事、追加設置工事が完了し、現場や施設内共有部の照明が明るくなり、過ごしやすい環境が整った。光熱費の削減にも期待している。
- ・10月末、受電設備キュービクルの消耗部品取替え工事が完了し、向こう10年は安定して電力を供給できる環境が整った。
- ・パン工場社屋の南側出入口の雨水侵水は庇の構造の不備によるものと判明し、直ちに改修工事を行ったことで雨水の浸水は無くなった。
- ・男性従業員ロッカー室の清掃を明和寮ジョブクリーンサービスの実習の場として提供。週一回ではあるが、清掃実習を行ってもらうことで清潔な環境を維持できている。

(4) 開設40周年事業の実施

- ・委員会メンバーを構成し、記念誌編集や行事の実施等、主だった方向性や企画の検討を行ったが、年度内に実施することはできなかった。

1. 港ワークキャンパス 就労継続支援事業 A型(定員60名)

- ・ブリキ缶の新規取引先は、商社を活用することによって多く獲得できた。これにより売上も大幅に達成することができた。しかし不採算製品についてはリストアップまで実施できたが、廃版になった製品は1製品に留まった。新ライン設備については年末に導入され年度内での安定稼働が期待されたが、未だ安定稼働には至っていない。次年度早々に稼働できるようにメーカーへ打診している。
- ・以前よりも金属工場と施設外就労の連携が強化されたため欠員が出た際などフォローし合いながら業務を進めることができた。

ア 賃金支払状況

科目	在籍者(名)			賃金(年間総支給額÷12)(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R3年度	51	2	53	240,185	66,615	134,342
R4年度	48	2	50	177,298	26,343	134,685
R5年度	46	3	49	252,968	11,872	139,090

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

金属加工事業	ブリキ缶製造：1,605,361 缶出荷		
施設外就労	複合機部品開梱作業	:	695,591 kg実績
	手分解作業	:	126,766 kg実績
	その他開梱作業	:	56,234 kg実績
	パレット開梱作業	:	3,038 パレット

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3 年度	2	5	53	60
R4 年度	5	8	50	
R5 年度	5	6	49	
(R5 年度退所者): 職員雇用 1 名、ワーク B 型 3 名、その他 2 名				

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	6	19	2	24	4	0	53(2)
R4 年度	3	14	2	24	8	1	50(2)
R5 年度	3	13	2	24	9	0	49(2)

() 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	39	0	4	9	1	0	0	53
R4 年度	34	0	7	6	3	0	0	50
R5 年度	33	0	7	7	2	0	0	49

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R3 年度	0	10	8	10	14	11	53	46.5 歳
R4 年度	0	8	9	12	13	8	50	45.1 歳
R5 年度	0	7	10	10	15	7	49	44.5 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	R3 年度	254	12,607	49.7	82.8%
	R4 年度	254	11,780	46.4	77.3%
	R5 年度	254	11,566	45.5	75.9%

2. 就労継続支援事業 B型（定員 60名）

- ・ホームページやインスタグラムなどでの情報発信を積極的に行うとともに、LINE公式アカウントへ登録をしてもらい、双方向でのコミュニケーションができる仕組み作りを行った。利用者の家族とは出欠や利用状況の情報共有ができた。在学中の親御さんには施設の取り組みや実習、見学のお知らせをタイムリーに伝えられるなど利便性もアップした。
- ・新規のクッキー製造事業では、パティシエからの技術指導を受け、OEM製造を中心に事業展開し、売上の確保とともにパティシエになるという夢や目標、やりがいのある魅力的な事業としていける道筋を作った。
- ・パン缶販売においては、ノベリティ企業のカタログ掲載、名古屋市ベビーエール事業への商品提供、ネット専用贈答用仕様商品など販売チャンネルの拡大を進めてきた。
- ・アレルギーフリークッキーについては、3種類の味で試作も終え、最終的な商品仕様や製造場所について引き続き検討を進めている。
- ・外出行事の際に、利用者の金銭管理の訓練も兼ねて、昼食代を現金で支給し、商品の選択やお金の計算、支払いなどをできるだけ自分で行うようにした。

ア 工賃支払状況

	在籍者(名)			工賃（年間総支給額÷12）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
R3年度	26	27	53	R3年度平均		48,279
R4年度	27	26	53	R4年度平均		48,312
R5年度	31	26	57	R5年度平均		52,057
パン缶	11	7	18	88,245	17,042	52,895
下請作業	19	20	39	102,000	2,222	51,951

在籍者は期末現在数。基本報酬算定の工賃計算方法を用いている。

R5年度平均工賃月額においては平均利用者数を用いた新たな算定方法に変更。

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

パンの缶詰製造事業	販売缶数：791,228 缶
下請作業	あられ袋詰め作業：143,794 個 ヘルメット組立：82,618 個 クッキー製造数：(焼き菓子) 67,343 個 (スポンジ) 2,896 枚 きしめんチップシール貼り：19,920 袋

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	6	3	53	60
R4年度	7	7	53	
R5年度	7	3	57	
(R5年度退所者): 自己都合3名				

エ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他 身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	6	8	1	30	9	1	53(2)
R4年度	6	8	1	34	6	1	53(3)
R5年度	6	9	1	38	4	1	57(2)

()内は重複障害再掲

オ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	28	0	6	7	10	1	1	53
R4年度	25	0	8	8	10	1	1	53
R5年度	26	0	8	8	13	1	1	57

カ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	3	31	2	4	5	8	53	35.8歳
R4年度	6	27	6	2	4	8	53	34.2歳
R5年度	5	30	7	2	5	9	58	34.8歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	R3年度	254	11,355	44.7	74.5%
	R4年度	254	11,806	46.5	77.5%
	R5年度	254	11,917	46.9	78.2%

3. 福祉ホーム 『みなと』(定員 20 名)

- ・施設共有部分の照明について、LED 取り換え工事が完了。以前の薄暗い照明から施設全体が明るく過ごしやすい印象となった。
- ・前年度からの清掃美化の一環で業者への委託を継続中。臭いや汚れも改善されている。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	1	3	12	20
R4 年度	0	2	10	
R5 年度	0	0	10	
(R5 年度退所者): 0 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	3	8	1	0	0	0	12
R4 年度	2	7	1	0	0	0	10
R5 年度	2	7	1	0	0	0	10

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
R3 年度	7	0	2	3	0	0	0	12
R4 年度	7	0	2	1	0	0	0	10
R5 年度	7	0	2	1	0	0	0	10

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
R3 年度	0	1	1	2	4	4	12	53.5 歳
R4 年度	0	0	2	2	3	3	10	53.4 歳
R5 年度	0	0	2	1	2	5	10	54.4 歳

・戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
生活介護事業	
施設入所支援	
短期入所事業	
通所生活介護事業	木の香
(共生型 地域密着型通所介護)	
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』
生活介護事業	『クリエイト東茶屋』

入所者への新型コロナ等感染予防対策を継続しつつ、外出・外泊や面会時間の拡充、地域の福祉交流行事への当事者派遣など地域とのつながりを創り始めた年となった。

虐待防止・身体拘束適正化委員会では虐待防止マネージャーを配置し、年間予定に沿った虐待チェックリストや研修の実施など活動に取り組んだものの、1件の虐待通報があったが、結果的に虐待とは認定されなかった。これらの経過と結果と再発防止策を職員には報告し、利用者・家族には令和6年4月の事業説明会で報告した。また、衛生委員会では初の職員アンケートを実施、集計結果を踏まえ2階を休憩・静養スペースにするなど職員の心身の健康増進策を推し進めた。

通所生活介護『クリエイト東茶屋』は事業コンセプトを「地域参画と社会貢献」と定め、開所準備を進め9月の開所となった。

技能実習生の育成も順調、2名とも日本語試験N3に合格し、現場で活躍している。

施設行事として、家族を招待する形で7月に利用者音楽発表会を開催、9月には地域の役員も招待して秋祭りを開催することができた。

< 拠点重点項目 >

(1) 継続的安定的な収益増のしくみをつくる

- ・『クリエイト東茶屋』を9月に定員20名で新設開所し、祝日開所も導入した。木の香の移転で入所生活介護の定員を50名から40名にすることで一人当たりの単価が上がり、収益性が上がった。
- ・短期入所ではアウトリーチ的営業や事前アセスメントの導入、『クリエイト東茶屋』利用者の送迎、1泊2日利用者の入浴開始、活動や喫茶利用の幅を拡げることで利用者増に努めた。

(2) 継続的な業務改善による組織の強化

- ・防災の事業継続計画（BCP）更新を行い、周知・訓練に努めた。防災訓練は年間計画に従い実施した。

【実施内容】

夜間地震発生時の職員初動訓練：4/24・26

消火訓練：11/7

火災・地震時避難経路・手順確認：12月各部署会議時に伝達（BCP対応）

地震・津波時の避難訓練（隣接のAJU自立の家と合同避難訓練）：3/15

- ・感染対策委員会で新型コロナ等感染症マニュアルの更新と周知・訓練を実施した。
- ・新型コロナ感染した入所者の家族への病状連絡は看護から、リハビリ等具体的な連絡は理学療法士からと分担を定めて実施した。
- ・年間研修計画や委員会計画に沿って障害理解の研修や外部講師による意思決定支援の研修等実施した。

（3）建物・設備の計画的な更新

- ・廊下など共用箇所のエアコン交換は実施できず、清掃にとどめた。トイレ建具等取替え工事、モニュメント塗装工事、天井装飾丸太撤去工事等実施した。明和寮より借用したトラックの修理が突発的に発生した。

次年度は屋上防水工事、共用箇所エアコン交換等を行う予定。

- ・光熱費軽減施策として5月にすべてのエアコンに省エネルギー部材を取り付けた。

1 障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

（1）生活介護・施設入所支援事業

【生活支援部門】

- ・買い物や旅行、利用者の希望に合わせた個別外出を実施することができた。
- ・個別面談を継続して行うことはできなかった。
- ・個別支援活動から小集団活動への移行を目指していたが、個別支援活動のニーズも高いため継続して実施。小集団活動も少しずつ取り入れていくことができた。活動時は利用者間のコミュニケーションも促していき、余暇の充実を図ることができた。
- ・コロナ禍で中止していた日帰り旅行企画も再開し、近場の行先を選択していただき安全に実施することができた。
- ・各班会議・個別支援会議を定期開催し、必要時にはケース検討会議を行い、各部署からの意見を出し合い支援方法を検討した。介護リーダー会議も毎月実施、新たに同性カンファレンスも月数回実施し、業務改善や介護部署の課題を検討した。
- ・超低床ベッドを導入し、介助者の介助負担軽減や利用者の身体的負担を軽減した。

【看護部門】

- ・希望する利用者全員に新型コロナワクチン接種を7回実施した。
- ・5類化移行後も施設特性を配慮して感染予防対策を継続できた。感染者発生時には医療機関や家族と連携を図り対応した。

- ・健康維持と重度化・体調急変時に関しては、施設生活に様々な制限があるからこそコミュニケーションを大切に、職員個々が多職種・家族と積極的に関わることによりチーム（組織）で協力し合う意識を持てた。
- ・職員が研修に1回以上参加でき、利用者支援や業務に役立てることができた。

【セラピスト部門】

- ・感染予防対策を行いながら個別リハビリや音楽療法を継続、他職種と連携したグループ活動も実施し、利用者の心身機能維持に努めた。

【給食部門】

- ・安定的な給食の提供を行うため7月に破損した厨房床下配管工事を実施した。その際に防災緊急時を想定し、介護職員主体で弁当の提供訓練を実施した。
- ・8月より調理員1名と朝6時～9時のパート職員を採用し人員体制の強化を図った。
- ・昼ミーティングを活用して調理技術の共有をした。

【事務部門】

- ・短期入所利用者受入れ業務を一部担当し、相談員や介護職員と協働で担った。
- ・修繕箇所の洗い出しを行い、次年度以降で実施する計画を策定した。
- ・経理、財務研修は、内容が取りまとめられず未実施となった。

【喫茶・環境部門】

- ・喫茶について感染予防のため、人数と時間を定めて利用いただいた。短期入所利用者へは食堂スペースでの利用か居室へのデリバリーを基本として対応した。
- ・洗濯は業務の確実性と効率化を目指し、午後からパート職員2名体制とした。業務量や業務の煩雑さは、まだ改良の余地がある。
- ・日曜日のトイレ清掃は日直職員が対応する体制を続けた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	1	1	40	40
R4 年度	2	2	40	
R5 年度	2	2	40	
(R5 年度退所者): グループホーム(地域移行)1名、死去 1名				

イ 障害別状況(年度末時点)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
脳性まひ	22	21	22
脳障害後遺症	6	8	7
頸髄損傷	1	1	1
二分脊椎	2	2	2

化膿性脊髄炎	1	1	1
視覚障害	4	4	4
筋ジストロフィー	2	1	0
パーキンソン症候群	1	1	1
脊髄小脳変性症	0	0	0
外傷による体幹機能障害	1	1	1
両下肢機能障害			1
知的障害	(25)	(24)	(24)
精神障害 <small>法人全体）まとめ.dc</small>	(2)	(2)	(2)
合 計	40(27)	40(26)	40(26)

* 最も顕著な障害で分類 () 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	0	0	0	0	0	7	33	40
R4年度	0	0	0	0	0	4	36	40
R5年度	0	0	0	0	0	2	38	40

エ 年齢構成 (年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	0	1	4	3	16	16	40	55.5歳
R4年度	0	1	3	5	12	19	40	56.4歳
R5年度	0	0	3	4	20	13	40	57.9歳

オ 生活介護 利用状況 (短期入所利用者の日中利用含む)

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	R3年度	313	11,656	37.2	93.1%
	R4年度	313	11,559	36.9	92.3%
	R5年度	313	11,684	37.3	93.3%

カ 施設入所支援 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
40	R3年度	365	14,481	39.7	99.2%
	R4年度	365	14,499	39.7	99.3%
	R5年度	366	14,396	39.3	98.3%

キ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
組紐（R5年度）	23回	6名	96名

ク 家族面会状況

	面会回数
令和4年度	181回
令和5年度	278回

(2) 短期入所事業

- ・施設入所や他施設利用、年度末の新型コロナ発生の影響などで登録利用者数の減少、利用稼働率の低下があった。地域福祉の使命として緊急利用含め受入れを継続し、平均利用稼働率は58.4%と前年度と比べ大きな変動は無かった。
- ・短期入所のサービス体制や入浴等支援内容の見直しについて多職種職員で協議し、利用者や家族のニーズに対し、段階的に拡充できた。新規利用希望者に利用再開、利用日数増加の提案を続け、積極的に見学や体験を受入れ、新規5件に繋がった。

ア 短期入所及び通所利用状況

	利用人数	延べ 利用日数	1日平均 利用者数	利用 稼働率	通所利用 人数	通所利用 延べ日数
R3年度	513	1,940	5.3	66.3%	3	3
R4年度	319	1,728	4.7	59.2%	3	3
R5年度	354	1,710	4.7	58.4%	7	9

(3) 通所生活介護事業（共生型 地域密着型通所介護） 木の香

- ・9月の『クリエイト東茶屋』開所までの準備期間に、曜日ごとの利用者数の調整を行い各曜日の登録利用者を可能な範囲で揃えたり、明和寮生活介護ぷちとまと職員との相互研修の機会を設け、利用者特性を把握し合う機会を設けることで新規開所時の安定運営に繋げることができた。

以下表ア～オ R5年度は4月から8月までの数値

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	0	3	22	10
R4年度	0	1	21	
R5年度	1	0	22	
(R5年度退所者): なし				

イ 障害別状況（8月末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3年度	1	22	0	18	2	0	22(21)
R4年度	1	21	0	17	2	0	21(21)
R5年度	1	22	0	18	2	0	22(21)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（8月末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R3年度	0	0	0	0	1	3	18	22
R4年度	0	0	0	0	1	3	17	21
R5年度	0	0	0	0	1	3	18	22

エ 年齢構成（8月末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	1	7	5	4	5	0	22	37.9歳
R4年度	0	7	5	3	6	0	21	40.2歳
R5年度	0	7	5	4	6	0	22	39.2歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	R3年度	234	2,137	9.1	91.3%
	R4年度	240	2,023	8.4	84.3%
	R5年度	101	932	9.2	92.3%

3 生活介護事業 『クリエイト東茶屋』

- ・9月の新設開所から年度末にかけて、新型コロナなど感染症の流行もあり、地域交流を目的とした企画はできなかったが、民生委員や特別支援学校 PTA など団体向けの見学会を実施し地域貢献への足掛かりができた。
- ・個別活動を重視した身体機能や感覚機能の維持に努め、利用者一人ひとりのニーズに沿った活動を提供することができた。
- ・7ヶ月間の平均利用稼働率は、93.3%と目標を達成した。ただ、関係機関からの期待は高く、次年度は更なる利用者の受入れを行い、利用者満足度を高められるよう取り組む。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R5年度	42	4	38	20
(R5年度退所者): 死去 3名 住宅型有料老人ホーム 1名				

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R5年度	3	36	0	31	2	0	38(34)

()内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
R5年度	0	0	0	1	1	7	29	38

エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R5年度	0	12	12	5	7	2	38	37.8歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
20	R5年度	146	2,724	18.7	93.3%

2 指定相談支援事業 『戸田川障害者相談センター』

- ・大きく人員体制が変動するも、契約数 173 件、地域移行 3 件で目標達成した。
- ・計画的に研修に参加し、算定可能な全ての体制加算を取得できる体制を構築した。
- ・毎週定例会議を開催しケース検討や情報共有を行うことや、経験年数に応じて外部研修にも積極的に参加し、必要なスキルの習得に努めた。
- ・直通電話を開設し、デスクの配置換えを実施し業務効率が向上した。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R3年度	133	369	144	10
R4年度	167	480	158	9
R5年度	166	480	160	13

熱田・港地域生活支援拠点

日々の暮らし相談室

公益事業

『視覚総合相談室』

相談支援事業

『ひびの障害者相談センター』

基幹相談支援センター

『港区障害者基幹相談支援センター』

地域活動支援事業

『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

放課後等デイサービス

『わくわくキッズ』

放課後等デイサービス

『わくわくステップ』

年度途中での部署長異動が2件、これに加え拠点長の交代もあり、組織の再構築を図る年となった。これを機に事業の体制を見直し、経営状況に課題のある事業へのテコ入れを実施した。本部からの応援も受け、赤字解消に向けた策を検討、実施した。

ひびの相談では計画書作成等の件数が伸び、更に人員配置等の見直しを図ることで赤字幅を改善。視覚総合相談室と合わせ「日々の暮らし相談室」として一層の体制強化を図ることとなった。あちえっとほーむやわくわくキッズ・わくわくステップでも活動内容の見直しや人員の協力体制を強化するなど改善に取り組み、次年度の更なる変革へとつなげた。

< 拠点重点項目 >

(1) 事業の活性化

- ・計画相談事業では、利用者1名に対し2名で対応する複数担当制を敷いた。また、日々の暮らし相談室として視覚総合相談室の業務も全員で対応できるよう一体的な取り組みができる体制を整えた。これにより視覚相談等への対応がよりスピーディにできるようになり、相談者の安心を担保、問い合わせもワンストップで対応できる場面が増えた。あちえっとほーむでは利用者満足度の向上のため、希望の多い外出イベントを中心に開催したことで、利用稼働率向上につながった。わくわくキッズ・ステップでもプログラムの見直し、関連機関への広報強化、SNS等の積極的活用を通じ、登録者増へもつながった。また、第1回合同保護者を明和寮で開催し、港ワークキャンパスの見学も行い好評を得ており、次年度も開催を予定している。

(2) 継続的な業務改善による組織の強化

- ・新型コロナウイルス第5類への移行を経て世の中の動きも変わってはきたが、事業所では引き続き検温や消毒への対応を実施。利用者や職員の周囲でも感染はゼロにはなっていないが、事業所内へ持ち込まれ事業停止となることはなく通年継続できた。
- ・相談支援専門員初任者研修や児童発達支援管理責任者の実践研修を受講。各事業

の体制強化を図ると共に、職員個々の研鑽を積めた。他の研修受講や、基幹センターでは育成ビジョンシートを活用し、独自に育成を図った。

(3) 建物・設備の計画的な更新

- ・あちえっとほーむやわくわくキッズ、わくわくステップの送迎車（ハイエース）全てにバックモニターとドライブレコーダーを設置した。また、名古屋市の補助金を活用し、児童の「(車内)置き去り防止装置」も設置を完了している。

1 日々のくらし相談室

(1) 公益事業『視覚総合相談室』

○視覚相談事業

- ・視覚障害当事者・家族に加え、眼科・相談支援専門員・ヘルパー事業所、ケアマネ・いきいきセンターなど幅広い分野から問い合わせがあり、前年度に引き続き月平均30件、合計434件の問い合わせがあった。
- ・当年度の変更点として、「名古屋市代筆・代読支援員派遣事業」の利用要件拡大に伴い問い合わせが増加した。日常生活の困りごとに関する総合相談に派生するケースも増加した。また、市外・県外からの相談、講師派遣、雑誌への寄稿などの問い合わせに対応した。愛知県社会福祉協議会の「地域公益取組助成事業」助成金を活用して視覚総合相談室の紹介動画を作成しホームページで視聴できるようにした。

ア 相談者

	新規案件	継続案件	合計(件)
R3年度	232	133	365(実人数307名)
R4年度	238	174	412(実人数338名)
R5年度	245	189	434(実人数361名)

新規は初回相談件数、継続は同内容による2回目以降複数回の相談件数

イ 相談方法

	来所	電話	メール等	訪問	合計(件)
R3年度	35	277	28	25	365
R4年度	30	316	29	37	412
R5年度	36	290	26	82	434

ウ 相談者種別

	本人(当事者)	家族	支援者	知人/友人	合計(件)
R3年度	142	48	169	6	365
R4年度	198	44	167	3	412
R5年度	209	34	189	2	434

エ 相談内容（延べ数）

	学習相談	視覚障害者理解等	生活相談	障害受容	歩行訓練 関連	その他	合計
R3 年度	47	163	274	171	91	28	774
R4 年度	76	205	299	224	92	24	920
R5 年度	44	218	333	217	73	85	970

○歩行訓練事業

- ・4月より情報文化センターに窓口を変更し、共同で訓練に取り組んだ。視覚総合相談室では延43人に67回の訓練を実施。詳細は情報文化センターの項にて報告。

○同行援護従業者養成研修事業

養成研修 (一般・応用課程) 実施回数 2回	土曜開催(10月~11月)5日間 修了者数 16名(うち福祉分野以外8名(学生1名))
	平日開催(2月~3月)5日間 修了者数 18名(うち福祉分野以外7名(学生0名))

○派遣事業

- ・法人内外の施設や団体と連携し視覚障害理解推進(点字・歩行関連・当事者体験講話等)の講習講師を務めた。
- ・インターネット検索で視覚総合相談室の取り組みを知ったと市外県外からの新規依頼あり。

ア 講師派遣 実績

	歩行関連	点字関連	ロービジョン 外来	名古屋盲学校 (自立活動)	啓発 その他	合計
R3 年度	4	2	13	33	6	60
R4 年度	4	2	16	31	10	63
R5 年度	15	1	-	-	15	31

ロービジョン外来・名古屋盲学校(自立活動)はR5年度より情報文化センターの取り組みに移行。

○名古屋市代筆・代読支援員派遣事業

- ・事業開始4年目となった当年度より、市に住民登録があり視覚障害で読み書きに不便のある方であれば本事業を利用できることとなった。これにより利用登録者数は47名となり前年度比3.1倍増、述べ派遣回数も282件と前年度比3.5倍増となった。傾向としては同行援護支給決定者の割合が多い点、日々届く郵便物の仕分けに加え、パソコンやスマートフォン、家電など日常生活全般の読み書きが多い点であ

る。これらのニーズにこたえていけるよう支援員養成講習、フォローアップ研修内容のブラッシュアップに努める。

ア 代筆・代読支援員派遣事業実績

	養成講習受講者	支援員登録者	利用登録者	派遣延べ回数
R3 年度	20	31	16	32
R4 年度	19	45	15	80
R5 年度	19	62	47	280

支援員・利用登録者の数は3月末時点。

令和5年度より支援員は3年ごとの登録更新制となったが、年度末時点の支援員登録者数には登録更新しない支援員の数も含まれている。

(2) 相談支援事業 『ひびの障害者相談センター』

- ・当年度より明和障害者相談センターと統合することで、人員増となり事業安定化を図ることができた。また、視覚総合相談室の業務を一体的に行うことで、日々のくらし相談室の機能強化をすることができた。
- ・法人内相談支援事業所の体制強化として、相談支援連絡会を定期的開催。情報共有や意見交換の実施と共に、内部事業所の見学を含めた研修会および若手相談員を含めた研修会の2回を開催することができた。
- ・加算対象となる地域移行に向けた研修には1名参加、3名の地域移行支援を達成することができた。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(名)	
			障害者	障害児
R3 年度	214	556	133	16
R4 年度	185	451	159	24
R5 年度	358	1,101	357	36

2 基幹相談支援センター 『港区障害者基幹相談支援センター』

- ・コンソーシアムとして実施している地域活動支援事業については令和6年度の移転を保留とし、当年度は設備改修を進めた。基幹相談支援センターにおいては、相談事業所の隣接物件を活用し、イベントや講習などを定期的開催することができた。
- ・新型コロナの流行も収まり、地域に向けた啓発活動が復活し、従来通りのスケジュールでイベントや講習を開催することができた。
- ・自立支援協議会や関係機関との会議は、基本対面開催を実施し、一部オンラインも活用し参加者に選択肢を提供することにより参加しやすくした。
- ・人材育成を目的として、各相談員の経験年数に合わせた課題やビジョンを一覧にし

た育成ビジョンシートを活用して相談員個々の目標設定を行った。

- ・防災対策として、地域の通所施設や相談員と協力して、名古屋市主催の防災訓練の参加やヘルプカードの利用促進を行いながら防災意識の向上を目指した活動を行った。

ア 相談実績件数

	訪問相談支援	外来相談支援	実績合計数	自立支援協議会
R3 年度	1,234	3,728	5,004	42
R4 年度	1,431	4,673	6,104	54
R5 年度	1,138	3,688	4,826	43

外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカウント。

3 地域活動支援事業 『地域活動支援センター あちえっとほーむ』

- ・地域活動支援計画を計画的に行うシステムを整備し、継続的にモニタリングを実施することにより利用者ニーズを掘り起こす仕組みを構築した。
- ・新型コロナが第 5 類となり、外出支援も含めたプログラムが提供できるようになり、水族館やカラオケなど希望が多い企画を打ち出しながら次年度に向け方向性を模索することができた。
- ・年末まで順調に回復した利用稼働率も冬季に体調不良者、入院者が続出したことが影響し、通年では 80% 台をわずかに超え微増の結果となった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
R3 年度	10	5	89	19
R4 年度	5	4	90	
R5 年度	10	6	76	

(R5 年度退所者): 就労支援施設 1 名、転居 1 名、地域移行 1 名
 死去 1 名、施設入所 1 名、体調不良による利用停止 1 名
 なお、長期欠席者及び所在不明者 18 名を期末在籍者より除外

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	21	38	7	18	9	1	89(5)
R4 年度	21	37	7	19	9	1	90(4)
R5 年度	15	33	6	18	9	0	76(5)

() 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
R3年度	0	7	4	15	13	50	89	63.0歳
R4年度	0	6	3	13	13	55	90	64.0歳
R5年度	2	5	5	10	13	41	76	60.0歳

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
19	R3年度	265	3,870	14.7	77.4%
	R4年度	252	3,721	14.7	77.4%
	R5年度	262	4,047	15.4	81.3%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
音楽療法講師	20回	1名	20名
太極拳講師	24回	1名	24名
ピアフラワー講師	11回	1名	11名
押し花講師	12回	1名	12名
パソコン	85回	4名	161名
活動支援	262回	6名	472名
イベント支援	2回	7名	14名
合計	416回	21名	714名

4 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

- ・利用者像が多様化する中で、活動室内に内扉を設置し利用者が事業所外に飛び出すリスクを軽減し、より安全にサービス提供できる環境を整備した。また、わくわくステップの送迎車両を含めて置き去り防止装置を補助金にて整備した。
- ・新たにパステルアートを取り入れることで評価や成績にとらわれない創作活動を通じて教育機関で評価する項目以外のアセスメント情報が多面的に得られ、集中力や自己肯定感が高まるプログラムとして保護者から評価を得ることができた。
- ・利用稼働率は約82%にとどまる結果となったが、相談支援事業所への営業を通じ、児童発達支援の地域ニーズが高いことから積極的な受入れを行ってきた。その結果、地域の相談支援事業所をはじめとする関係機関から一定の評価を得た。またキッズ・ステップ共同で第1回合同保護者会を開催し、次年度につながる取り組みを行うことができた。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	5	12	24	10
R4年度	4	7	21	
R5年度	7	5	23	
(R5年度退所者)：高校卒業2名、自己都合2名、他県へ転居1名				

イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
R3年度	0	5	24	0	0	24(5)
R4年度	0	4	21	0	0	21(4)
R5年度	0	3	23	0	0	23(3)

()内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数

特別支援学校			保育園	小学校	中学校	専門 学校	その他	合計
小学部	中学部	高等部						
4	2	1	4	10	2	0	0	23

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	R3年度	251	2,040	8.1	81.3%
	R4年度	252	2,062	8.2	81.8%
	R5年度	253	2,082	8.2	82.3%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
音楽療法講師	24回	2名	48名
キッドビクス講師	24回	1名	24名
計	48回	3名	72名

5 放課後等デイサービス 『わくわくステップ』

- ・数年来、小学校に通う児童も含め幅広い年齢層の受入れを進めてきた中で課題となっていた提供プログラムのミスマッチについて利用者、保護者のニーズや年齢、発達段階に応じ、プログラムを二分して提供する仕組みを構築した結果、児童複数名の登録増に繋がった。
- ・インスタグラムを定期的に発信することで利用者、保護者から一定の評価を得る

ことができ、フォロワー数も 500 アカウントに迫る規模になってきた。また事業所パンフレットを刷新し、法人の歴史やスケールをバックボーンとして捉えられる構成にすることで訴求力を高め広報する準備を整えた。

- 一部の業務をマニュアル化することで全職員が対応でき、正職員が利用者支援に注力できる環境づくりや外部研修への参加を推進できる体制を整備した。また情報共有ツールとして連絡ノートの運用を開始することで業務開始時における情報共有をスムーズに、送迎後に夕礼を実施することにより全職員共通認識をもって支援する体制を構築した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3 年度	6	6	18	10
R4 年度	5	9	14	
R5 年度	11	7	18	
(R5 年度退所者): 高校卒業 3 名、その他 4 名				

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
R3 年度	0	1	17	1	0	18(1)
R4 年度	0	0	12	2	0	14
R5 年度	0	1	16	1	0	18

() 内は重複障害再掲

ウ 利用者の学校別の人数

特別支援学校			小学校	中学校	専門学校	その他	合計
小学部	中学部	高等部					
2	0	8	3	5	0	0	18

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用稼働率
10	R3 年度	252	1,897	7.5	75.0%
	R4 年度	252	1,786	7.1	70.8%
	R5 年度	255	1,704	6.7	66.8%

オ 講師・ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延べ人数
音楽療法講師	12 回	1 名	12 名
計	12 回	1 名	12 名

情報文化センター 拠点

視覚障害者情報提供施設 『情報文化センター』

4月の統一地方選作業について、事前に作業手順・効率化を検討・準備をし、他部署を始め、他拠点からの協力を得て納期内に当事者へ届けることができた。

医療関係者との連携を深めるため、4月の「ボランティアの集い」では愛知県眼科医会理事の講演により医療の知識を深め、5月の「用具展」では愛知県医師会館を会場に「医療と福祉の連携」をテーマとして開催、当事者・医療・福祉関係者など、800名を超える来場者があり、盛況のうちに終わることができた。

名古屋市が進める読書バリアフリー事業について、視覚障害者をはじめ、肢体・発達障害など、点字・音声・テキスト図書が必要とする方々へ情報提供ができるように、読書バリアフリー推進計画（6か年計画）の作成のため継続的に会議を進めた。市のパブリックコメントを経て推進計画書が完成。令和6年4月から名古屋市読書バリアフリー推進計画を元に事業を進めていく。

当年度より新しく名古屋市から委託を受けたICTサポート事業について、8月から本格的にサービスを開始し、訪問・来館・連絡（電話・メール）など、多くの当事者にご利用頂いている。今後も当事者のニーズを確認しながら満足いただけるように事業を進めていく。

これらの活動により、医療機関、関連施設や当事者団体からの相談や紹介、また、初めて来館いただく方が増加し、親しみやすく丁寧な対応ができるように、更なる職員のスキルアップを進め、継続して施設を利用いただけるように進めていく。

< 拠点重点項目 >

(1) 事業の活性化

- ・名古屋市が主体となり基本計画策定会議を4回開催。新たな有識者を加え計画を策定した。次年度から6年計画で実行していく。
- ・1月より広報誌でテキストデータ化を広報しサービスを開始した。
- ・8月より障害者ICTサポート事業を本格的に開始。中心となる訪問対応の他、来館や電話、メールでの対応も行った。
- ・ボランティア交流会を2月に21名（ボランティア11名、職員9名）で開催した。開催日の通達が遅くなってしまい、曜日で参加が難しい方もいたので、次年度はより多くの方に参加していただけるように計画していく。

(2) 継続的な業務改善による組織の強化

- ・貸出担当者で他館を訪問し、図書貸し出し状況、蔵書管理など学び、意見交換する場を設け、当館で取り入れられる事項を検討した。
- ・校正の質の確保や繁忙期におけるフォローなど、年間を通して職員間の連携ができた。触読者会議を隔月で開催し、校正技術や点字表記のスキルアップを図った。

た。音訳担当について養成講習の参加はできなかったため次年度検討する。

- ・音声版についても、よりよい品質を目指すため、各グループへ訪問し現状把握、フォローアップを行い、各区訪問について、無理のない範囲で順調に行っている。次年度も継続する。

(3) 積極的な広報活動の推進

- ・企画商品について、ホームページへの掲載は行ったが、メール配信や点字毎日への掲載ができなかった。次年度は広報に力を入れる。

職員・ボランティア人数

	職員		ボランティア			
	職員総数	うち 視覚障害者	音訳関係	点訳関係	その他	合計
R3 年度	23	8	133	93	51	277
R4 年度	20	8	131	94	68	293
R5 年度	25	7	128	84	67	279

寄附件数

	個人	団体	～10万円	10万円～
R3 年度	34	5	37	2
R4 年度	30	3	29	4
R5 年度	27	4	29	2

1. 図書館事業部

- ・テキストデータ化ボランティアの例会を月1回のペースで開き、製作のルール作りを進めるとともに、今後見込まれるニーズに対応するための組織強化に努めた。
- ・製作効率化に向けた BESX システム活用のためのボランティア研修を2月に実施。機能の理解と利便性を知る機会となった。
- ・公共図書館・関係団体などと連携し、名古屋市の読書バリアフリー推進計画策定委員会メンバーとして、同計画策定に参画した。
- ・読書会を9月と3月に実施した。恒例イベントとして定着しつつあり、読書バリアフリーの具現化という目的が実践できた。

蔵書数

	点字図書		録音図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
R3 年度	10,325	40,714	9,764	9,769
R4 年度	10,576	41,827	10,124	10,129
R5 年度	10,900	43,158	10,556	10,556

新規製作図書

ア 蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数 (内リクエスト)	冊数	タイトル数 (内リクエスト)
R3 年度	306 (13)	1,201	158 (59)
R4 年度	251 (8)	1,046	150 (45)
R5 年度	217 (6)	959	136 (48)

イ 雑誌

	点字		録音 (CD)	
	月刊	隔月	月刊	隔月
R3 年度	2 種類 24 タイトル	1 種類 6 タイトル	6 種類 72 タイトル	4 種類 24 タイトル
R4 年度	2 種類 24 タイトル	1 種類 6 タイトル	6 種類 71 タイトル	4 種類 24 タイトル
R5 年度	2 種類 24 タイトル	1 種類 6 タイトル	6 種類 72 タイトル	4 種類 24 タイトル

ウ プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
R3 年度	11	10	5
R4 年度	12	33	8
R5 年度	25	83	4

エ サピエデータアップ状況

	点字データ		デイジーデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
R3 年度	290	1,140	228	1,710 時間 02 分
R4 年度	252	911	238	1,591 時間 35 分
R5 年度	229	971	224	1,374 時間 23 分

ボランティア養成

ア 点訳ボランティア

	点訳者養成（隔年）	フォローアップ講習（隔年）	英語点訳
R3年度	1講座 23回 延べ 235名	-	1講座 13回 延べ 65名
R4年度		1講座 4回 延べ 40名	
R5年度	1講座 20回 延べ 282名	-	1講座 19回 延べ 95名

イ 音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ講習	校正者養成講習 （フォローアップ）	テキスト-編集者 養成講習
R3年度	22回 176名	4回 20名	-	-
R4年度	22回 176名	4回 20名	-	-
R5年度	21回 149名	3回 19名	1回 3名	-

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク操作講習
R3年度	-	17回 181名	1回 5名
R4年度	1回 23名	24回 234名	1回 7名
R5年度	1回 19名	22回 221名	-

貸出

ア 登録者数

	個人（内・サピエ）			団体
R3年度	A会員 2,325(676)/	B会員 48(24)	合計 2,373(700)	529
R4年度	A会員 2,345(701)/	B会員 58(30)	合計 2,403(731)	534
R5年度	A会員 2,363(723)/	B会員 68(37)	合計 2,431(760)	548

イ 利用者数

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
R3年度	190	3,126	25	4	616	23,873
R4年度	192	2,619	4	13	751	22,490
R5年度	166	2,407	2	8	742	21,334

R2年6月より録音テープ図書の貸出しは他館製作のもののみとしている。

ウ みちしお購読者数

	点字	デイジー	墨字	メール分割	メール添付	総数	実数
R3年度	289	346	415	268	82	1,400	1,281
R4年度	274	332	424	265	84	1,379	1,268
R5年度	262	297	423	267	88	1,337	1,227

エ 資料貸出数

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
R3年度	3,126	7,967	25	16	23,873	23,913
R4年度	2,619	5,474	13	65	22,490	22,528
R5年度	2,407	6,309	8	40	19,413	19,414

オ サピエからのオンラインリクエスト数（サピエ上での図書注文システム）

	リクエスト 送信数（施設）	リクエスト 送信数（個人）	リクエスト送信数 （施設・個人合計）	リクエスト受信数 （施設・個人合計）
R3年度	1,002	512	1,514	4,779
R4年度	1,006	436	1,442	3,780
R5年度	921	451	1,372	3,507

カ コンテンツ（点字データ）利用状況集計

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
R3年度	18,791	68,706	180	28,420
R4年度	12,760	45,801	169	19,245
R5年度	13,348	49,890	161	22,393

キ コンテンツ（音声デイジー）利用状況集計

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用者	再生延べ 利用者	ダウン タイトル数	ダウン 時間	ダウン 実利用者	ダウン延べ 利用者
R3年度	11,552	8,417 時間 3 分	157	29,580	32,183	250,656 時間 26 分	433	202,362
R4年度	10,264	8,780 時間 31 分	163	26,262	31,785	242,807 時間 34 分	445	201,546
R5年度	8,672	8,186 時間 10 分	139	21,625	31,598	242,484 時間 6 分	444	195,584

ク サピエのデジターオンライン（サピエ上の図書データ提供サービス）

	A 会員		B 会員		合計	
	実 利用者数	登録 タイトル数	実 利用者数	登録 タイトル数	実 利用者数	登録 タイトル数
R3 年度	3	28	0	0	3	28
R4 年度	2	31	0	0	2	31
R5 年度	4	8	0	0	4	8

情報提供数

	新聞点訳	バリアフリー 映画会	メールマガジン たご通信	メールマガジン ほっとタウンナビ
R3 年度	28 名	5 回 88 名	232 件	173 名
R4 年度	26 名	6 回 122 名	268 件	178 名
R5 年度	27 名	6 回 115 名	278 件	178 名

（ ）内実人数

	点字出力 サービス	対面読書 サービス	代筆・墨訳 サービス	利用者向け プレストーク 個人講習	利用者向け プレストーク 操作体験会
R3 年度	30,188 枚	1 件	12 件	2 回 2 名(2 名)	-
R4 年度	38,159 枚	0 件	18 件	1 回 1 名(1 名)	-
R5 年度	33,255 枚	-	2 件	-	2 回 12 名

2 サービス事業部

(1) 用具斡旋販売事業

- ・当年度は白杖や拡大読書器の販売数は増加したが、PC ソフトの販売数が 4 割程低下したこともあり年間の販売額は 3% 減（前年比）となった。
- ・5 月に用具展を開催した。出展業者は 21 社し来場者は 900 人弱となった。
- ・SNS や機関誌を活用し、利用者にとって有用な用具の情報を発信した。

用具斡旋販売事業収入

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
収入（円）	51,590,013	53,997,996	52,373,838

読書支援機器販売台数

	ブックトーク (録音・再生) PTR3	ブックトーク (再生専用) PTN3	拡大読書器	小型ブックトーク PTP1・ブックレット
R3年度	47	23	122	41
R4年度	65	6	116	32
R5年度	53	30	133	21

PTP1はR3年5月、ブックレットはR4年12月に販売終了、R5年度分は同じ小型携帯機のセンスプレイヤーで集計。PTN3は、R3年度半ばより半導体不足により一時生産停止したため販売数激減。R5年1月より出荷再開となる。

歩行・情報支援機器販売台数

	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
R3年度	517	PC-Talker(34)	MyMail(13)	MyBook (10)
R4年度	457	PC-Talker(52)	MyBook (18)	MyMail(16)
R5年度	542	PC-Talker(29)	MyMail(13)	MyBook(8)

(2) 社会参加支援・ピア相談

- ・中失点字学習会は2講座45回開催。11月の外出訓練では、リニューアルされた公共公園におけるバリアフリー設備や障害者への配慮について考えた。他の各種教室も予定通り開催した。
- ・前年度に引き続き初来館者が増加傾向にある。三宅病院LV外来を始めとした医療機関への訪問対応や医療従事者の他、様々な機関の積極的な広報により、見えづらくなり始めた方への情報周知がスムーズになされ、キャッチアップできる仕組みが整いつつあるように感じる。

MAJ講習回数

	R3年度	R4年度	R5年度
回数	30回	42回	40回
延べ人数	76名	76名	114名

相談支援件数

	相談支援		合計
	継続支援(件)	新規支援(件)	
R3年度	36	173	209件(実人数 175名)
R4年度	38	183	221件(実人数 184名)
R5年度	21	210	231件(実人数 209名)

相談内容

	生活	コミュニケーション	就労	学業	ピアカ	家族	ロ・ビジョン	移動	その他	計(件)
R3年度	81	12	22	2	29	17	5	69	28	265
R4年度	75	9	21	1	36	12	2	65	29	250
R5年度	68	26	25	1	26	11	1	57	41	256

相談内容によって複数の項目でカウント

中途失明者緊急生活訓練状況

	点字触読指導				料理・お菓子教室	
	回数	人数	うち新規	自主学习	講座数	延べ人数
R3年度	34回	20名	4名	14名	9回	42名
R4年度	45回	19名	6名	16名	11回	44名
R5年度	45回	13名	3名	11名	11回	49名

講師派遣・見学件数

	講師派遣等	見学対応		
		小中高等学校	その他施設	計
R3年度	16	2	14	16件 102名
R4年度	23	2	34	36件 212名
R5年度	30	2	9	11件 84名

(3) IT訓練支援

個人講習 106件(内 Zoom 遠隔 47件)。相談件数 881件(内 Zoom 遠隔 7件)。

- ・情報発信として、みちしおに ICT 情報を 6 件掲載した。
- ・雇用支援として、職業能力開発校委託 PC 訓練 2 件(各 1 名、合計 192 時間)雇用管理サポート 1 件(1 名) その他支援(相談 6 名、指導 3 名)を実施した。
- ・外部講師として、日本福祉大学 15 回、春日井市社会福祉協議会 4 回、名古屋市交通局 2 回、名古屋盲学校、愛知学泉大学、視覚障害者就労支援機関情報交換会、視覚障害リハビリテーション研究発表大会、ネクストビジョン&タートルシンポジウムを担当した。

IT 訓練支援の内訳

	相談(延べ人数)	個人指導(延べ人数)	集団指導(延べ人数)
R3年度	889	177	1(10)
R4年度	1022	173	2(8)
R5年度	881	106	4

(4) 歩行訓練事業

- ・当年度より申込窓口を情報文化センターに移し、情報文化センター、日々のくらし相談室に各 1 名ずつ歩行訓練士を配置した体制となった。各種変更についてもスム

ーズに進み、大きな混乱もなく移転することができた。

- ・上半期は訓練希望者が少ない状態が続いたが、下半期は年度末にかけて訓練希望者が増加し続けた。特に年度末は進学、就職を伴う歩行訓練が例年以上に多かった。

歩行訓練実績

	相談件数	歩行訓練実施延べ回数	修了者数
R3 年度	69 件	249 件 (来所 41 訪問 208)	30 名
R4 年度	52 件	282 件 (来所 42 訪問 240)	36 名
R5 年度	55 件	222 件 (来所 16 訪問 206)	24 名

その他活動

	名古屋盲学校自立活動 (歩行訓練等)		眼科三宅病院 ロービジョン外来		名古屋市立大学病院 ロービジョン外来	
	活動時間	延べ人数	実施回数	延べ人数	実施回数	延べ人数
R3 年度	91 時間	55 名	12 回	40 名	1 回	1 名
R4 年度	91 時間	49 名	12 回	34 名	4 回	5 名
R5 年度	91 時間	73 名	12 回	37 名	2 回	2 名

(5) ICT サポート事業

- ・新規事業として本年度より開始。8 月までは準備期間、広報期間としていたが問い合わせがあれば開始前でも対応した。8 月からの本格開始後は、多様なニーズに対応しつつ、訪問に限らず様々な形態でのサポートを実施した。

対応方法

	来所	訪問	メール	電話	オンライン
R5 年度	105 件	78 件	19 件	76 件	0 件

対応機器等

	スマートフォン (iPhone/iPad)	スマートフォン (android)	PC	その他 (専用機器等)
R5 年度	78 件	17 件	77 件	105 件

3 点字出版事業部

(1) 収益増への取り組み

- ・製作単価見直しについて、前年度に引き続き見直しを行ってきたが無事に価格表を完成することができた。
- ・新規出版物の製作について、目標である 1 タイトルを製作することができた。

(2) 点字・音声製作物の体制づくり

- ・ボランティアとの交流について、予定通り1回開催することができボランティアからも大変好評だった。次年度以降も継続し交流を深めていく。

(3) 利用者ニーズに合ったサービスの模索・提供

- ・広報なごや音声版の各区フォローアップについて、点字版に続き当年度から開始したが、無理のない範囲で順調に訪問できている。次年度も継続していく。

点字出版事業収入

	収入(円)	大口受注(定期受注は除くが、新規開始するものは含む)
R3年度	74,998,870	衆議院選挙、NTT点字電話帳作業、7月より広報なごや点字版区版の定期製作開始
R4年度	89,343,418	参議院議員選挙、福祉都市環境整備指針、名古屋市ハザードマップ、防災ガイドブック、なごやのごみ減量・資源化ガイド、障害者基礎調査、福祉特別乗車券運賃負担金支給金額決定通知書の定期製作開始
R5年度	89,889,461	統一地方選挙、名鉄線点字運賃表

点字出版物製作

ア オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	点字企画商品 (触図クリアファイル、ドッグタグ、 年賀状点図シール、一筆箋、ポチ袋)
R3年度	856冊	20タイトル	10タイトル	1,489枚
R4年度	0冊	9タイトル	12タイトル	1,887枚
R5年度	0冊	25タイトル	0タイトル	1,460枚

R3年度をもって月刊誌「やまびこ」は廃刊としたため、R4年度以降は0冊。

イ 受注製作物(定期刊行物・公共料金明細・点字名刺)

	名古屋市(広報なごや・市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	公共料金明細 (電気・ガス・水道)	点字名刺
R3年度	4,032部	656部	720部	8,220枚	118名
R4年度	4,618部	648部	706部	11,816枚	68名
R5年度	4,354部	637部	652部	9,051枚	90名

R3年7月より広報なごや区版の製作を開始。

音声版受注作製物

	名古屋市 (広報なごや・市会だより)	生活情報誌 らしんばん
R3 年度	デージー4,604 枚、 音楽CD版 488 枚	デージー 418 枚
R4 年度	デージー4,455 枚、 音楽CD版 612 枚	デージー 381 枚
R5 年度	デージー4,365 枚、 音楽CD版 589 枚	デージー 350 枚

点字技術支援 (点字サイン・UV加工等)

	点字サイン製作・監修	UV点字加工
R3 年度	2,289 枚	782 点
R4 年度	3,935 枚	487 点
R5 年度	3,331 枚	221 点

瀬古マザー園拠点

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所』
居宅介護事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

ここ数年で行ってきた環境整備をベースに、特別に大きな支出をすることなく、部署、事業ごとに個別ケアを一步ずつ前進させた。

利用稼働率については、市場状況は年々厳しさを増しており各事業ともに苦戦、ショートステイと居宅介護支援事業所のみが目標を達成、それ以外の事業は未達となった。特段大きな支出はなかったものの、収入の目標未達、水道光熱費を中心とした物価高騰等を背景に赤字での着地となった。

新型コロナウイルス感染症については、引き続き一定の影響を受け続けているが、5類への移行を踏まえた対応を検討し、柔軟な対応に更新し続けてきた。

< 拠点重点項目 >

(1) 事業の活性化

- ・各種経費が増大する中、事業ごとに利用稼働率を向上、安定させ、事業ごとの黒字化を目指したが、特養(ショートとの合計)、居宅、盲養護は何とか黒字を確保したが、デイサービス2事業の赤字が大きく、他事業でその赤字を埋めるに至らず、拠点全体としても赤字となった。
- ・瀬古デイは、上半期から年末に向けて利用稼働率の上昇傾向を維持していたが、年明けからの冬場に失速、年間では目標に至らなかった。矢田デイは、利用者の施設入所や死去に伴う退所が相次ぎ、それを補う新規契約を取ることができず、利用稼働率の低下を止めることができなかった。年明けには新所長を迎えたが、職員体制構築等が難航し、目標に大きく届かなかった。

(2) 新型コロナ等感染予防対策の継続実施と事業継続計画(BCP)の運用

- ・新型コロナの5類移行までに拠点としての新しい対応ガイドラインを作成、共有し、大きな混乱なく移行した。利用者の生活も通常に近づき、かなりのQOL改善が見られた。その後も、より実情に合った、そして利用者の心身状況等への影響が最小限となるよう対応方法を検討、改善を続けてきている。時に入所施設内で感染が広がることはあるが、重症者は出ず、収束までの期間も短縮してきている。
- ・これまでの感染対策で得た成果を事業継続計画(BCP)への反映、運用には至っておらず、課題として残っている。

(3) その他

- ・コロナ禍で中止していた地域交流イベント「瀬古なかよしふれあいフェスティバル」を4年ぶりに再開し、多くの地域の方に足を運んでいただいた。

1 特別養護老人ホーム 『瀬古第一マザー園』

- ・担当時間の有効活用や可視化を目的に「個別担当実施表」を作成し運用を開始した。活動内容の共有やチームでの個別ケアを狙ったが、浸透していない部分もあり課題が残った。次年度は、更に活用できるよう仕組み等を検討する。
- ・3階フロアの改修工事（R3年度）、温冷配膳車等の備品整備、食事提供体制や業務の再構築を行い、3階フロアでの食事を開始した。先行した2階フロアを含め、足掛け4年かけて取り組んできた念願のフロアでの食事提供がスタートした。1階食堂を利用していた頃に比べ移動時間の削減や時間の縛りからの解放により生活環境が大きく改善した。
- ・生活支援員、看護師、栄養士が協力し、「食事介助スキルアップ研修」を開催、全介護職員が参加した。なめらか食やとろみつき飲料の実食、職員同士の相互食事介助体験を通して「利用者の立場に立つ」という基本に立ち返る機会となった。
- ・待機者の総数及び実質的待機者が大きく減少し、新規入所者選定に時間を要することが増え、空床発生から入所までの期間が長期化した。また併設施設の都合による空床ロングショート利用も多く、年間利用稼働率は93.1%と目標には至らなかった。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	9	8	58	60
R4年度	14	16	56	
R5年度	11	11	56	

(R5年度退所者): 死去5名(うち看取り1名)、医療機関6名

イ 要介護度状況 (年度末時点)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度
R3年度	0	1	15	29	13	58	3.9
R4年度	0	1	15	27	13	56	3.9
R5年度	0	1	15	27	13	56	3.9

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
60	R3年度	365	21,017	57.6	96.0%
	R4年度	365	20,355	55.7	92.9%
	R5年度	366	20,452	55.9	93.1%

2 盲養護老人ホーム 『瀬古第二マザー園』

- ・階段に見守りカメラを設置した。度々ある夜勤帯でのエスケープ早期発見と事故防止に役立っている。転倒事故発生時には録画を見直し、発生時の詳細を把握することで、実態に即した再発防止策の検討に役立った。
- ・外部研修（視覚障害リハビリテーション基礎講習、同行援護従事者研修）に参加するとともに、夜間想定救急シミュレーションや窒息時の対応等、現在の盲養護老人ホームにより必要な内部勉強会を開催し、支援スキル向上に努めた。また、他県の盲養護老人ホーム見学や、相談員の会合に参加し、情報交換を行った。
- ・利用者ニーズから新イベントを企画、実施し、利用者に喜ばれることで職員のやりがいにも繋がったが、準備段階から利用者に深く関わってもらうまでには至らなかった。利用者の小さな役割づくりは少しずつ取り組んでいる。
- ・やむを得ない事情により8月、1月の月初満床が未達となった。新型コロナ等で数年行えていなかった広報活動を再開するため、パンフレット刷新、広報先選定と訪問計画作成、時間を作るための業務整理等を行い、年度末から営業活動を開始した。
- ・浴室環境の改善・改修を計画したが、継続した検討の結果、必然性が低いと判断し実施を見送った。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
R3年度	5	5	50	50
R4年度	5	5	50	
R5年度	9	10	49	

(R5年度退所者): 特別養護老人ホーム3名、医療機関3名、その他4名

イ 施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者	50	50	50	50	49	50	50	50	50	49	50	50	—
入所	0	0	1	2	1	0	1	1	1	1	1	0	9
退所	0	0	2	2	0	0	1	1	2	0	1	1	10

ウ 視覚障害等級別状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	計
R3年度	35	13	2	0	0	0	0	50
R4年度	36	13	1	0	0	0	0	50
R5年度	37	11	0	0	0	0	1	49

エ 要介護度状況 (年度末時点)

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R3年度	32	1	4	3	7	1	2	0	50
R4年度	32	1	5	5	7	0	0	0	50
R5年度	29	0	4	4	10	1	1	0	49

3 短期入所生活介護事業 『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』

- ・毎月カンファレンスを開催し、利用者やご家族のニーズに応えることができるよう多職種で施設サービス計画書の見直しを行い、ケアの質の向上を図った。
- ・ADLの低下により対応が困難になった盲養護の利用者を、特養入所が決まるまでの期間、ショートステイで受け入れた。特養の空床も利用したことにより10月以降の利用稼働率は100%を超え、年間目標を達成することができた。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者	定員
R3年度	7	9	7	4
R4年度	12	15	8	
R5年度	8	6	6	

3月に利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況 (3月実利用者)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R3年度	0	0	0	1	3	2	1	7
R4年度	0	0	0	5	2	1	0	8
R5年度	0	0	0	1	3	2	0	6

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
4	R3年度	365	1,352	3.7	92.6%
	R4年度	365	1,182	3.2	81.0%
	R5年度	366	1,409	3.8	96.2%

4 高齢者デイサービス

(1) 『瀬古マザー園デイサービスセンター』

- ・計画通り、機能訓練室の床、扉を改修し、訓練環境の向上に取り組んだ。利用者、家族、ケアマネに機能訓練の実施を勧めるとともに、今まで以上に職員間で協力してチームとして機能訓練に取り組み、加算算定率は70%にまで上昇した。
- ・利用者一人ひとりの希望や好み、得意分野を考慮しながら、創作レク（塗り絵、貼り絵、軽作業等）運動レクリエーション、季節に合わせた企画やレク等に活発に取り組んだ。また、小さなお手伝い等を個別に依頼するなどして役割を持っていただき活躍していただく場面づくりに努めた。
- ・第一四半期は新型コロナの影響で利用稼働率は減少傾向となったが、そこから6ヶ月は、地道なPR効果からか順調に利用稼働率が伸び、12月には70%に迫った。しかし年明けから長期利用者の契約解除が立て続き、年間利用稼働率は60.5%と目標には届かなかった。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者	定員
R3年度	22	19	52	30
R4年度	19	23	51	
R5年度	16	9	52	

3月に利用実績のない登録者がある場合、実利用者と一致しない場合がある。

イ 要介護度状況 (3月実利用者)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R3年度	2	8	14	13	5	8	2	52
R4年度	2	12	10	11	8	8	0	51
R5年度	3	9	12	16	9	3	0	52

ウ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
30	R3年度	293	5,319	18.2	60.5%
	R4年度	309	5,663	18.3	61.3%
	R5年度	308	5,587	18.1	60.5%

(2) 『矢田マザー園デイサービスセンター』

- ・コロナ禍で中止していた選択型レク再開に向け、ホワイトボードを小型化するなど利用者同士の接触が減るように対応を変更した。選択レクは再開したがレクに対応できる職員が配置できる日に限ったの実施にとどまり、毎日の活動としては実施できなかった。

- ・個別機能訓練は看護師や介護職員で協力しながら実施した。未実施の利用者にも訓練を推奨し実施者数を上げられるよう努めた。また、身体状況や経過をモニタリングしたものを書面化（見える化）し、家族や担当ケアマネへ配布、報告を行った。
- ・前年度に引き続き、新型コロナによる利用中止や高齢化からの長期入院や死去、施設入所などによる利用解除が夏頃から相次いだ。毎月、平均 20 件の居宅介護支援事業所への営業訪問を行ったが、新規利用者数より利用解除者数が上回り、利用稼働率を向上できず、年間利用稼働率は 52.8%と前年度を更に下回る結果となった。
- ・年度末に複数の職員が退職や休職する事態となり、通常営業をすることが精一杯の状態年度末を迎えた。

ア 利用登録状況

	新規登録者	解除者	3月実利用者	定員
R3年度	21	20	52	30
R4年度	12	13	51	
R5年度	20	24	44	

3月に利用実績のない登録者がある場合、実利用者とは一致しない場合がある。

イ 要介護度状況 (3月実利用者)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	共生型	計
R3年度	4	4	9	23	7	3	0	2	52
R4年度	3	3	9	21	9	3	1	2	51
R5年度	4	3	10	14	7	3	0	3	44

ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用稼働率
30	R3年度	309	6,450	20.9	69.6%
	R4年度	306	5,552	18.1	60.5%
	R5年度	308	4,883	15.9	52.8%

5 居宅介護支援事業 『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業』

- ・「高齢者いきいき相談室」を継続登録したが、一年間で4件の相談に留まった。年間利用稼働率は103.7%となった。
- ・ケアマネジャー同士の連携強化と虐待防止委員会も兼ねて、毎月1回、居宅ミーティングを開催し、困難事例の情報共有と各種情報交換の場を設けた。障害者基幹相談支援センターとの交流は、一度の研修に参加したのみで、継続的には実施できなかった。
- ・ケアプランの内容について、運営指導で数箇所の口頭指摘を受けた。指摘事項は

運営指導以降、意識して改善している。

- ・法人内事業所への紹介率を上げることができず 40%前後で推移した。紹介はしても最終的に利用者本人が他の事業所を選択したり、ケアマネ 2 名で担当できる利用者数に限度があるため新規利用者の受け入れが限定的だったりしたことが要因となった。ケアマネの欠員補充ができなかったため、年間を通して 2 名体制での運営となった。

ア 利用状況

	総合事業	要支援	要介護	合計（件）	利用稼働率
R3 年度	251	384	1,092	1,727	90.3%
R4 年度	307	434	1,221	1,962	101.1%
R5 年度	225	300	833	1,358	103.7%

利用稼働率 = (要支援数×1/2 + 要介護数) ÷ 12 ヶ月 ÷ ケアマネのケース上限 (上限はケアマネ 1 名あたり 39.5 件) 総合事業はカウントに含まれず。

6 ふれあいセンター 『瀬古平成会館』

- ・外壁塗装工事に向けて補助金、その他助成金や借入による整備について名古屋市と協議したが、いずれも難しく法人資金での整備をとの回答であった。躯体の老朽化への対応を含め、対策や予算確保について引き続き検討していく。
- ・正門掲示板や館内掲示、ホームページで周知に努めている。延べ利用者数、実利用者団体とも増加、定期利用者も安定している。広報以外では座椅子、長机などの備品を購入し利用しやすい環境の整備を進めた。

ア 施設利用状況

	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
R3 年度	316	3,614	24
R4 年度	468	6,299	27
R5 年度	473	6,456	33

7 事務部門・給食部門

(1) 事務部門

- ・施設の新パンフレットは原案を作成しながら、使用目的を再検証しており刷新には至らなかった。ホームページでは、よりサービスの強みを発信すべく瀬古デイのページをリニューアルした、他事業所も準備段階である。また並行して施設の様子を発信する一環として毎月「マザー園日記」を更新した。
- ・求人はハローワーク、ホームページ (AirWork)、ナースセンター、外部人材業者な

ど各所を活用。また併せて屋外掲示板や職員紹介制度の活用にも取り組んだ。

- ・外国人留学生については10月に2人目を受入れた。現在は学校と仕事を両立しながら生活している。留学2年目のもう1名は当初の計画より遅れたものの在留資格を1月に特定技能に変更。現在はフルタイム職員として業務習得に励んでいる。

(2) 給食部門

- ・特養3階フロアでの朝昼夕3食喫食は5月より開始。時間配分や備品の調整等は必要な時に都度打ち合わせを実施。計画通りに実施できた。
- ・新人職員の入職があり、育成指導を優先的に行った。一方で、利用者喫食率をあげる工夫について具体的なことまで実施できず、次年度へ持ち越しとなった。
- ・非常食の営業をきっかけに、商品の入れ替えを検討したものの現行の商品でいくこととなった。そのため災害、感染症発生時の対応マニュアルの更新は不要となった。